

シラバス《目 次》

人生と哲学	102	仏教学 a	136
倫理と人間	103	仏教学 b	137
日本の歴史と文化	104	禅学 a	138
信仰と生活	105	禅学 b	139
和の養生学 a	106	禅宗史 a	140
和の養生学 b	107	禅宗史 b	141
漢文の基礎 a	108	日本文化 a	142
漢文の基礎 b	109	日本文化 b	143
日本語 I a	110	宗教思想 a	144
日本語 I b	111	宗教思想 b	145
日本語 II a	112	仏教福祉 a	146
日本語 II b	113	仏教福祉 b	147
仏教学の基礎	114	禅宗経典 a	148
禅学の基礎	115	禅宗経典 b	149
仏教史概論	116	禅宗法儀 a	150
禅宗史概論	117	禅宗法儀 b	151
禅と人間	118	日本事情 a	152
提唱・禅語録 I a / II a	119	日本事情 b	153
提唱・禅語録 I b / II b	120	太極拳	154
禅の作法と心得 a	121	ヨ ガ	155
禅の作法と心得 b	122	茶道 a	156
建学の精神フィールドワーク I / II	123	茶道 b	157
卒業実践研究 a	124	華道 a	158
卒業実践研究 b	125	華道 b	159
布教学 a	126	筆禅道 a	160
布教学 b	127	筆禅道 b	161
僧侶必携 a	128	陶芸 a	162
僧侶必携 b	129	陶芸 b	163
坐禅 I a / II a	130		
坐禅 I b / II b	131		
作務 I a / II a	132		
作務 I b / II b	133		
仏教ボランティア I a / II a	134		
仏教ボランティア I b / II b	135		

科目名		人生と哲学		担当教員名		宇佐美 之 規	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	春	金曜日・1	2	講義	15	選択	

サブタイトル	人生哲学
--------	------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。③建学の精神(行学一体)を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。④主体的自己を確立することにより、さまざまな問題を分析し解決することができる能力を身につけている。

【到達目標】

- ・哲学についての理解を深め説明することが出来る。
- ・人生哲学について自分なりに考え哲学的理解を深め発言することが出来る。
- ・現代社会における諸問題について哲学的に考察し説明することが出来る。

【授業概要】

哲学とは、自然及び社会、思考、知識の獲得に関する一般的法則を研究する科学であり、全体としての世界についての見解を示す世界観でもあり、根本的な原理について万物に共通する法則などを論理的に探究します。そこで、ギリシャ哲学から「存在とは」また、人生哲学とはどのように考えるのか、更に、善や悪とは、賛成と反対とは、正義とは等々について東洋哲学・禅ではどのように考えるのか全員参加型の対話形式の弁証法で議論をしつつ深く考え表現力を学びます。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	哲学のはじまり (講義)	万物の根源
②	哲学の問い (講義)	存在とは
③	課題1 (課題・発表・ビデオ視聴)	銃規制、賛成反対
④	古代ギリシャ哲学「根源と水」 (講義)	タレス
⑤	古代ギリシャ哲学「根源と空気」 (講義)	アナクシメネス
⑥	古代ギリシャ哲学「根源と知性」 (講義)	アナクサゴラス
⑦	古代ギリシャ哲学「ソクラテスの知性」 (講義)	無知の知
⑧	課題2 (課題・発表・講義)	道と哲学
⑨	古代ギリシャ哲学「プラトン」 (講義)	政治哲学
⑩	意識と対象 (講義)	ヘーゲル
⑪	現代ヤスパースの哲学 (講義)	ヤスパース、
⑫	実存哲学 (講義)	実存
⑬	実存の規定 (講義)	包括者
⑭	存在の探究 (講義)	限界状況
⑮	まとめ (講義)	人間の挫折
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

学習成果 (キーワード) について、予め調べて授業に出席して下さい。授業後には、授業の内容について簡単にまとめて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験 70%・授業への取組み及び受講態度 20%・レポート 10%。また、授業の5分の1以上欠席すると、定期試験の受験資格がなくなりますので、注意して下さい。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『哲学ノ考究』必要な資料は、担当者の方でコピーし配布します。
参考文献：文献等については、講義中に適時紹介します。

科目名		倫理と人間		担当教員名		宇佐美 之 規	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	秋	金曜日・1	2	講義	15	選択	

サブタイトル	道徳的性情
--------	-------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。③建学の精神(行学一体)を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。④主体的自己を確立することにより、さまざまな問題を分析し解決することができる能力を身につけている。

【到達目標】

- ・ 倫理という言葉についてその意味を学習し、説明することが出来る。
- ・ 倫理に関する社会的関心とその問題点について意見交換することが出来る。
- ・ 現代における倫理観の欠如の構造について考察することが出来る。

【授業概要】

日常的な事柄など身近な問題を題材として、日本人の道徳観(宗教性・禅を含め)を踏まえつつ、倫理について学習し、さまざまな諸問題について、矛盾に向き合い、その解消について考える思考力を養う力を身につけます。また、日本人のアイデンティティについてもテキストを読みながら学びたいと思います。また、テーマを設定しそれぞれが考えを述べて頂き建設的な議論をします。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	倫理とは (講義)	ethics
②	倫理という語彙 (講義)	秩序・人・言葉
③	古代ギリシャ「学問体系」 (講義)	アリストテレス
④	古代ギリシャ「都市国家」 (講義)	ポリス的
⑤	古代ギリシャ「幸福」 (講義)	ニコマコス
⑥	近代西洋における倫理 (講義)	カント
⑦	人間哲学としての問題領域 (講義)	Sapere aude!
⑧	日本における倫理 (講義・討論)	道徳教育
⑨	日本文化における型 (講義・討論)	型の必要性・武士道・禅
⑩	現代社会の諸問題「矛盾」 (講義)	賛成と反対
⑪	現代社会の危機 (講義・ビデオ視聴)	家庭・学校・社会教育
⑫	現代社会の危機「原因」 (討論)	型の崩壊
⑬	現代社会の危機「教育」(講義・ビデオ視聴)	時代の転換期
⑭	現代社会の危機「価値観」 (講義・討論)	文化の危機
⑮	まとめ (講義・討論)	主観・自由・平等の弊害
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

学習成果(キーワード)について、予め調べて授業に出席して下さい。授業後には、授業の内容について簡単にまとめて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験70%・授業への取組み及び受講態度20%・レポート10%。また、授業の5分の1以上欠席すると、定期試験の受験資格がなくなりますので、注意して下さい。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『倫理学ノ考究』必要な資料は、担当者の方でコピーし配布します。

参考文献：徳永昶典『日本人の誇りと自信を取り戻す33話』(コスモ21 税込み1404円)

科目名	日本の歴史と文化			担当教員名	鈴木重喜	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	秋	月曜日・3	2	講義	15	選択

サブタイトル	過去から学び未来につなげる
--------	---------------

【D P (ディプロマポリシー)】
 ①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。③建学の精神（行学一体）を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・日本の歴史や文化に関する用語の読み方を習得し、その意味を説明できる。
- ・古代国家の形成から近代までのそれぞれの時代の流れと特徴を説明できる。
- ・各時代で生み出された文化の意義と特徴を説明できる。

【授業概要】

本講義では、日本の歴史の中で特に文化史を中心に概説し、関連史料を全員で読みながら史料にあらわされた事柄について確認し考えます。この講義を通して日本人の過去の文化や先人の考え方等について学び、現代人として日本文化に一層の理解と関心を深めるとともに、次世代へ伝えようとする精神を身に付けます。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	はじめにー日本文化の源流ー（講義）	先土器時代、縄文時代、弥生時代
②	古代国家の形成と日本神話（講義・史料講読）	中国の史書、古墳時代、大和王権
③	仏教の受容とその発展（講義・史料講読）	聖明王、聖徳太子、鑑真、道鏡
④	漢風文化から国風文化へ（講義・史料講読）	平安遷都、漢詩、かな文字
⑤	平安時代の仏教（講義・史料講読）*レポート提出	最澄、空海、天台本覚論
⑥	鎌倉仏教の成立（講義・史料講読）	法然、親鸞、一遍、道元、日蓮
⑦	内乱期の文化（講義・史料講読）	平家物語、太平記、神道
⑧	国民的宗教の成立（講義・史料講読）	寺請制度、葬式仏教、両墓制
⑨	近世国家の成立と歴史思想（講義・史料講読）	キリシタン禁制、儒学
⑩	元禄文化（講義・史料講読）*レポート提出	義理と人情、赤穂事件
⑪	儒学の日本的展開（講義・史料講読）	朱子学、古学、古文辞学、陽明学
⑫	国学と洋学（講義・史料講読）	本居宣長、杉田玄白、緒方洪庵
⑬	明治維新における公論尊重の理念（講義）	尊皇攘夷、公武合体、明治憲法
⑭	近代日本における西洋化と伝統文化（講義）	文明開化、啓蒙思想、国家神道
⑮	まとめ（講義）	
⑯	筆記試験	

【授業外学修 予習・復習など】

今回の講義内容にあたるテキストの該当箇所および補助資料を読んだ上で、学習成果（キーワード）を事前に調べて授業に臨んでください。授業後はテキストや補助資料を確認し、講義の内容を文章化して簡潔にまとめてください。理解できない内容についての質問は、オフィスアワーの時間に受け付けますので、遠慮なく聞いてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験（筆記試験 70%程度）と授業への取り組み（10%程度）、レポート（20%程度）により行います。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波書店 税込み 864円）

科目名	信仰と生活			担当教員名	今村敬子	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	月曜日・3	2	講義	15	選択

サブタイトル	生活様式の中における信仰の役割
--------	-----------------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・信仰とは何かを把握することができる。
- ・日本をはじめ世界各国のさまざまな宗教を比較理解し、その意義を説明することができる。
- ・世界各国における諸問題の根底である価値観（信念、信仰、宗教）の違いに事例をもって説明できる。

【授業概要】

本講義では日本も含めた世界各国における文化（生活様式）や信仰の相違点を様々な事例研究をすることによって比較理解し、それぞれの社会における価値基準や考え方を幅広く学ぶ。また不安定な世界情勢に対しても、グローバルな視点をもって人間の尊厳理解と平和の在り方（問題解決力）を追求し、社会に広げていく力（社会貢献力）を養うようにする。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	第1章 人類と文化ー人間とは何か (講義)	人類の起源と進化 文化の概念
②	" (討論)	文化相対主義、グローバル化
③	第10章 民族・階級・結社 (講義)	民族と国家、少数民族、身分
④	" (討論)	階級、エスニシティ、カースト
⑤	第3章 個人・家族・コミュニティ (講義)	個人と社会、家族
⑥	" (討論)	親族、コミュニティ、ボランティア
⑦	第4章 人生と儀礼 (講義)	通過儀礼、境界理論、
⑧	" (討論)	儀礼の構造、コミュニティ、過渡
⑨	第5章 宗教と世界観 (講義)	宗教、呪術、憑依シャーマン
⑩	" (討論)	儀礼の定義、現代の宗教と世界観
⑪	第6章 健康・病気・医療 (講義)	健康と身体、病気と治療
⑫	" (討論)	医療の体系、環境と健康
⑬	第7章 人間と死 (講義)	死の判定、医療と死、死体処理
⑭	" (討論)	死者儀礼、死と不浄性、祖先崇拜
⑮	まとめ	現代における死の問題
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

課題プリントをディスカッションした後、各自で完成して提出すること。
 次回の課題プリントや資料（教科書）に目を通して予習しておく。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験 70 %、授業中の取り組み(発表)10 %、授業後の課題プリント 20 %程度により評価する。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『文化人類学カレッジ版第3版』医学書院
 参考文献：必要な参考資料は随時コピーにて配布。

科目名	和の養生学 a			担当教員名	野崎 康 弘	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	火曜日・3	1	演習	15	選択

サブタイトル	和の養生
--------	------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。③建学の精神（行学一体）を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。④主体的自己を確立することにより、さまざまな問題を分析し解決することができる能力を身につけている。

【到達目標】

- ・日本の食材の効能を陰陽五行説で理解し説明することが出来る。
- ・日本の食事の良さを陰陽五行説で理解し説明することが出来る。
- ・伝統的なツボについて説明し、利用出来る。

【授業概要】

東洋医学の基本である陰陽五行説を学び、日常の食材やおかずについて、陰陽五行説で解説し、日本の食材や食事の良さを説明します。また、参加者のお袋の味を同様な方法で説明し、その良さを堪能していただきます。日本に古くから行われている「時節の行事」を解説します。日常使うことの出来るツボを説明し、実践してもらいます。蓮の栽培、甘茶の作り方を実践します。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	蓮について（講義）	植え付け実習、効能、利用方法
②	食養生（講義）	春の食材、
③	陰陽五行論（講義）	陰陽五行説の概念、五行の相生相剋
④	陰陽五行論（講義）	五行説について
⑤	陰陽五行論（講義）	五行と一日・一月・一年について
⑥	食養生（講義）	時節の食材
⑦	食養生（講義）	時節の食材
⑧	薬味（講義）	サンショウ、ショウガなど
⑨	調味料（講義）	味噌、しょうゆなど
⑩	医食同源（講義）	米（うるち米、もち米）、梅など
⑪	医食同源（講義）	ヨモギ、ドクダミなど
⑫	経絡とツボ（実習）	合谷、百会の効能、場所、施灸方法
⑬	経絡とツボ（実習）	後谿、大椎の効能、場所、施灸方法
⑭	甘茶について（実習）	甘茶作り実習、効能、利用方法
⑮	時節について（講義）	三伏、土用の鰻など
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

学習成果について、予習して授業に出席して下さい。授業後はまとめて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験 60 %、授業態度 20 %、レポート 20 %。また、授業の5分の1以上欠席すると、定期試験の受験資格がなくなります。

【テキスト及び参考文献】

テキストは、随時必要な資料を作成して配布します。

科目名		和の養生学b		担当教員名		野崎康弘	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	秋	火曜日・3	1	演習	15	選択	

サブタイトル	和の養生
--------	------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。③建学の精神（行学一体）を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。④主体的自己を確立することにより、さまざまな問題を分析し解決することができる能力を身につけている。

【到達目標】

- ・日本の食材の効能を陰陽五行説で理解し説明することが出来る。
- ・日本の食事の良さを陰陽五行説で理解し説明することが出来る。
- ・伝統的なツボについて説明し、利用出来る。

【授業概要】

東洋医学の基本である陰陽五行説を学び、日常の食材やおかずについて、陰陽五行説で解説し、日本の食材や食事の良さを説明します。また、参加者のお袋の味を同様な方法で説明し、その良さを堪能していただきます。日本に古くから行われている「時節の行事」を解説します。日常使うことの出来るツボを説明し、実践してもらいます。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	薬草苑・神薬才花苑の見学（実習）	150種類の薬草を体験する
②	時節、秋の食養生（講義）	中秋の名月、重陽の節句、菊、葱など
③	薬味（講義）	トウガラシ、ネギなど
④	1年の陰陽盛衰と養生（講義）	1年の陰陽盛衰、養生法、四季の疾患
⑤	1月1日の陰陽盛衰と養生（講義）	1月・1日の陰陽盛衰、養生法、月齢の疾病
⑥	経絡とツボ（実習）	四神聡、腰眼、膝眼の効能、場所、施灸方法
⑦	食養生（講義）	冬の食材、春菊、ゴボウなど
⑧	医食同源（講義）	桃、サトイモなど
⑨	医食同源（講義）	ヨモギ、ミカンなど
⑩	調味料（講義）	塩、ミリンなど
⑪	時節、食養生（講義）	冬至、おかずの陰陽五行説で検索
⑫	時節（講義）	正月（門松、鏡餅、七草がゆ）など
⑬	医食同源（講義）	大根、蓮根など
⑭	医食同源（講義）	おかずの陰陽五行検索（気味・帰経・主治）
⑮	味噌作り（実習）	味噌の作り方実践
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

学習成果について、予習して授業に出席して下さい。授業後はまとめて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験 60 %、授業態度 20 %、レポート 20 %。また、授業の5分の1以上欠席すると、定期試験の受験資格がなくなります。

【テキスト及び参考文献】

テキストは、随時必要な資料を作成して配布します。

科目名	漢文の基礎 a			担当教員名	横山 三千穂	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	月曜日・2	1	演習	15	選択

サブタイトル 読んで読んで、書いて書いて実力をつけよう

【DP (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・漢文漢詩の訓読、作文が出来ること。(白文－訓読文－書き下し文)
- ・漢詩の流れをつかみ、中国・日本の作品を讀解することが出来、鑑賞すること。
- ・作詩の法則を理解し説明することが出来る。また、作品を提出(平仄法・押韻法・用字法など)

【授業概要】

漢詩が日本に伝来したのは、百済の王仁が論語・千字文を献上(A. D. 285)したのがはじめてである。以来長い歴史の中で、先人の工夫と努力によって漢文を日本語にあてはめて読む訓読法を会得した。五山文学の論評の中で永平道元は「学人は只管打坐して他を管ずることなかれ。仏祖の道はただ坐禅なり。捨つべき道理左右に及ばず」、また、万里集九は「詩は是れ吾家の般若経。詩熟すれば即ち禅必ず熟す」と。漢詩の耽溺による五山文学の興隆、それに対する憂慮と訓戒等々興味は尽きないが、「詩禅一論」に参加するにはまず一編の漢詩を作る。高校では漢文漢詩の訓読鑑賞を習得してきたが、本講座では「漢詩作法」を取り入れ、時には試作に耽溺し、時には先人の生き方に参加してみたい。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	ガイダンス (講義)	漢詩いろいろ
②	中国古典文学の流れ (講義)	六朝文学、唐文学
③	漢文の構造と訓読 (講義)	漢字、音読、訓読
④	" (講義)	返り点、書き下し文
⑤	漢詩の鑑賞 (講義)	読んで
⑥	" (講義)	書いて
⑦	" (講義)	感動して
⑧	" (講義)	作ろう
⑨	漢詩の概要 種類 (講義)	古詩と近体詩
⑩	" 規則 (講義)	五言と七言絶句
⑪	漢詩作法 平仄法 (講義)	平起式と仄起式
⑫	" 押韻法 (講義)	脚韻 30 韻
⑬	作詩・題「初夏緑陰」合作 (作詩)	緑陰茗話
⑭	提出・添削・評価 (評価)	"
⑮	まとめ (反省会)	意見、いろいろ
⑯	筆記試験	

【授業外学修 予習・復習など】

山、川、郊外、寺など散策し、風景など見ながら、その感動の心を言語、漢語に表現し、そして詩にまとめよう。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

1. 積極的に授業に参加し、自身の基礎的な認識や理解を深め、身につけたかについて
2. 学習態度 20% レポート・漢詩 30% 定期試験 50%
3. 以上の割合で 90%以上は秀、80%以上は優、70%以上は良、60%以上は可

【テキスト及び参考文献】

参考文献：「漢詩創作講座」(日本漢詩教育会) 「五山文学集・江戸漢詩集」(日本古典文学大系 89 岩波書店)
 テキスト：「だれにもできる漢詩の作り方」(呂山 太刀掛重雄 呂山詩書刊行会) 2,000円
 ※受講時には漢和辞典を持参すること ※必要な資料は担当者の方でコピーして配布する。

科目名	漢文の基礎b			担当教員名	横山 三千穂	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	秋	月曜日・2	1	演習	15	選択

サブタイトル 読んで読んで、書いて書いて実力をつけよう

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・漢文漢詩の訓読、作文が出来ること。(白文-訓読文-書き下し文)
- ・漢詩の流れをつかみ、中国・日本の作品を讀解することが出来、鑑賞すること。
- ・作詩の法則を理解し説明することが出来る。また、作品を提出(平仄法・押韻法・用字法など)

【授業概要】

「詩志也」(詩文)「在心為志、發言為詩」(詩経)と書かれていた。心は知情意の本体で有り、形のない思うことを考えること感ずることである。この心を形のある漢詩漢語で漢詩の法則に従って表現すれば一首の詩を作ることができる。前期に学習した漢詩作法に従い、自分の感性を豊かにし、自分の詩を作ってみよう。もう一度事項を確認しておこう。①平仄法・押韻法・平起式・仄起式 ②一三不論・二四不同・二六対・下三連は除くなど ③同字重出不可・孤平を忌む・踏み落し・挟み平など 時には漢詩三昧になってほしい。時には「詩禅一味論」に参加してほしいと思います。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	作詩・題「初秋吟」(作詩)	新秋郊外
②	提出・添削・評価(評価)	〃
③	作詩 題「中秋賞月」(作詩)	秋夜寄友
④	〃(評価)	〃
⑤	作詩・題「看菊」(作詩)	重陽賞菊
⑥	〃(評価)	〃
⑦	作詩・題「紅葉」(作詩)	山寺観楓
⑧	〃(評価)	〃
⑨	作詩・題「守歳」(作詩)	歳晚書懐
⑩	〃(評価)	〃
⑪	作詩・題「新年」(作詩)	新年筆硯
⑫	〃(評価)	〃
⑬	漢詩集「伊深郷」の編集(製本)	冊子の作り方
⑭	資料集の編集(製本)	作品の反省
⑮	まとめ(反省会)	意見、いろいろ
⑯	筆記試験	

【授業外学修 予習・復習など】

漢詩ができれば、漢詩大会(全日本漢詩連盟、国民文化祭)に参加してみよう。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

1. 積極的に授業に参加し、自身の基礎的な認識や理解を深め、身につけたかについて
2. 学習態度 20% レポート・漢詩 30% 定期試験 50%
3. 以上の割合で 90%以上は秀、80%以上は優、70%以上は良、60%以上は可

【テキスト及び参考文献】

参考文献:「漢詩創作講座」(日本漢詩教育会) 「五山文学集・江戸漢詩集」(日本古典文学大系 89 岩波書店)
 テキスト:「だれにもできる漢詩の作り方」(呂山 太刀掛重雄 呂山詩書刊行会)2,000円
 ※受講時には漢和辞典を持参すること ※必要な資料は担当者の方でコピーして配布する。

科目名	日本語 I a			担当教員名	今村敬子	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	火曜日・3	1	演習	15	留学生必修

サブタイトル	日本語の基礎学習
--------	----------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・日本語の基礎力を習得することができる。
- ・日本語の語彙や文法を体系的に習得できる。
- ・簡単な日本語での表現ができる。

【授業概要】

初級レベルの日本語の基礎について習得を目指す。『みんなの日本語初級1』をテキストとして、日常会話に必要な基本的文法と語彙を養う。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	ガイダンス	
②	五十音	五十音の記憶
③	ひらがな・カタカナ	ひらがな・カタカナの使い方
④	あいさつ・自己紹介	基礎会話
⑤	これ・それ・あれ	指定
⑥	ここ・そこ・あそこ・あちら	移動
⑦	時間・曜日・数字	必修語彙
⑧	～へ行く	言語行動
⑨	～ます・～ましょう	道具、手段
⑩	～な・～い	形容
⑪	好き嫌い	表現
⑫	ある・いる	品詞
⑬	数え方	数
⑭	～より・～とどちら	選択
⑮	～したい・～がほしい	希望
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

学習成果 (キーワード) について、予め調べて授業に出席して下さい。授業後には、授業の内容について簡単にまとめて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験 70%・授業への取組み及び受講態度 20%・レポート 10%。また、授業の5分の1以上欠席すると、定期試験の受験資格がなくなりますので、注意して下さい。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『みんなの日本語初級1』スリーエーネットワーク
必要に応じてコピーして配布します。

科目名	日本語 I b			担当教員名	今村敬子	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	火曜日・3	1	演習	15	留学生必修

サブタイトル	日本語での表現
--------	---------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・文法や語彙の拡充により、基礎力が向上できる。
- ・物事をより詳しく説明する表現力を習得することができる。
- ・文の構造や意味・機能を総合的に理解することができる。

【授業概要】

初級レベルの日本語の基礎について習得を目指す。『みんなの日本語初級2』をテキストとして、日常会話に必要な基本的文法と語彙を養う。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	ガイダンス	
②	ください・ましょうか	請求
③	いいですか・いけません	質問
④	～でから・～で	場所の表現
⑤	～ないでください・なければなりません	ない形
⑥	ができます	ます形
⑦	ことがあります	た形 (連用)
⑧	普通体	公と普通
⑨	と思います・といえます	て形 (連用)
⑩	修飾関係	修飾
⑪	～とき	時間
⑫	あげます・もらいます・くれます	受身
⑬	仮定条件・確定条件	仮定・確定
⑭	会話1	会話の仕方1
⑮	会話2	会話の仕方2
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

学習成果 (キーワード) について、予め調べて授業に出席して下さい。授業後には、授業の内容について簡単にまとめて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験 70%・授業への取組み及び受講態度 20%・レポート 10%。また、授業の5分の1以上欠席すると、定期試験の受験資格がなくなりますので、注意して下さい。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『みんなの日本語初級1』スリーエーネットワーク
必要に応じてコピーして配布します。

科目名	日本語Ⅱa			担当教員名	宇佐美 之 規	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
2	春	火曜日・2	1	演習	15	留学生必修

サブタイトル	会話学習
--------	------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・日本語での会話が中級程度話することができる。
- ・応用的な表現を使った会話ができるようになる。
- ・ひらがな、カタカナ、簡単な漢字を理解することができるようになる。

【授業概要】

中級レベルの日本語を学びます。応用的な表現を身につけて、日本語のひらがな、カタカナ、簡単な漢字の読みと意味を習得します。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	第1課 話し言葉用法 (講義)	～んです。～んですが、
②	第2課 可能動詞 (講義)	まだ～ません。～は～、
③	第3課 習慣的動作 (講義)	～ながら、～ています。
④	第4課 結果の状態 (講義)	～が～ています。
⑤	第5課 他動詞と助詞の用法 (講義・課題)	～(よ)う。～予定です。
⑥	第6課 助言や指示 (講義)	～た/ないほうがいいです。
⑦	第7課 命令形・禁止形 (講義)	～てくれ。と言っていました。
⑧	第8課 名詞+のとおり (講義)	～とおりに。
⑨	第9課 自動詞と可能動詞 (講義)	～ようになりました。
⑩	第10課 受身の表現 (講義・課題)	～は～に(ら)られます。
⑪	第11課 動詞文の名詞句化 (講義)	～のは～です。～のが～です。
⑫	第12課 形容詞の否定形 (講義)	～て、～くて、～で、～ので。
⑬	第13課 疑問詞 (講義)	～かどうか、～。
⑭	第14課 ひらがな、カタカナ、簡単な漢字	ア～ン行の漢字
⑮	第15課 まとめ	
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

学習成果 (キーワード) について、予め調べて授業に出席して下さい。授業後には、授業の内容について簡単にまとめて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験 70%・授業への取組み及び受講態度 20%・レポート 10%。また、授業の5分の1以上欠席すると、定期試験の受験資格がなくなりますので、注意して下さい。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『新日本語の基礎Ⅱ』（スリーエーネットワーク、2,524円税抜き）
参考文献：文献等については、講義中に適時紹介します。

科目名	日本語Ⅱb			担当教員名	宇佐美 之 規	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
2	秋	火曜日・2	1	演習	15	留学生必修

サブタイトル	会話の類似場面
--------	---------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・日本語での会話が中級以上程度話することができる。
- ・より丁寧な表現を使った会話ができるようになる。
- ・ひらがな、カタカナ、漢字を理解することができるようになる。

【授業概要】

中級レベル以上の日本語を学びます。応用的な表現（丁寧な表現等々）を身につけて、日本語のひらがな、カタカナ、簡単な漢字の読みと意味を習得します。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	第1課 ひらがな、カタカナ、簡単な漢字	ア～シ行
②	第2課 授受 (講義・課題)	～をくださいませ、やります。
③	第3課 動詞の辞書形 (講義・課題)	～ために、～(の)に。
④	第4課 動詞のます形 (講義・課題)	～そうです。～て来ます。
⑤	第5課 ひらがな、カタカナ、簡単な漢字	ス～ノ行
⑥	第6課 形容詞+すぎます1 (講義・課題)	～く/にします。
⑦	第7課 形容詞+すぎます2 (講義・課題)	～すぎました。
⑧	第8課 動詞の肯定、否定形 (講義・課題)	～します。～にくいです。
⑨	第9課 辞書形 (講義・課題)	～場合は、～。
⑩	第10課 ひらがな、カタカナ、簡単な漢字	ハ～ン行
⑪	第11課 普通形+ようです (講義・課題)	～ようです。～そうです。
⑫	第12課 使役の用法 (講義・課題)	～は～を～(さ)せます。
⑬	第13課 尊敬 (講義・課題)	～(ら)れます。
⑭	第14課 謙譲語 (講義・課題)	お/ご～します。特別な謙譲動詞
⑮	まとめ	
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

学習成果（キーワード）について、予め調べて授業に出席して下さい。授業後には、授業の内容について簡単にまとめて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験 70%・授業への取組み及び受講態度 20%・レポート 10%。また、授業の5分の1以上欠席すると、定期試験の受験資格がなくなりますので、注意して下さい。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『新日本語の基礎Ⅱ』（スリーエーネットワーク、2,524円税抜き）
参考文献：文献等については、講義中に適時紹介します。

科目名		仏教学の基礎		担当教員名		横山 紘一	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	春	集中 7/31～8/4	2	講義	15	必修	

サブタイトル	仏教の展開と基本的思想
--------	-------------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。③建学の精神（行学一体）を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。④主体的自己を確立することにより、さまざまな問題を分析し解決することができる能力を身につけている。

【到達目標】

- ・ 仏教の基本的概念を学習し、その意味を説明することが出来る。
- ・ 仏教思想を深く理解し、他の宗教にはない特徴を他者に説明することが出来る。
- ・ 生きる上で仏教の思想を活かすことが出来る。

【授業概要】

まず、仏教を興された釈尊の出家の動因の考察から始め、仏教の基本的思想である無我・縁起・空・涅槃などを説明する。そして仏教の歴史の中でそれらの考えがどのように変容したかを探る。時には対話形式で授業を進めていく。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	釈尊出家の動因（1） （講義、討論）	四苦八苦
②	釈尊出家の動因（2） （講義、討論）	四苦八苦
③	釈尊の悟りの内容（1） （講義、討論）	四諦、十二支縁起
④	釈尊の悟りの内容（2） （講義、討論）	中道
⑤	無我について （講義、討論）	法と我
⑥	縁起について （講義、討論）	関係性
⑦	空について （講義、討論）	ゼロ
⑧	涅槃について （講義、討論）	煩惱の滅
⑨	部派仏教から大乘仏教へ （講義、討論）	阿毘達磨
⑩	大乘仏教興起の理由 （講義、討論）	利他行
⑪	般若思想について （講義、討論）	智慧と慈悲
⑫	唯識思想について （講義、討論）	八識
⑬	心の変革 （講義、討論）	阿頼耶識
⑭	仏教の現代的意義（1） （講義、討論）	自我意識の滅
⑮	仏教の現代的意義（2） （講義、討論）	いのちの時代
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

かならず復習をして問題点を探ること。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験 70 %、授業への取り組み姿勢 20 %、レポート 10 %。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：授業時に配る

参考文献：横山紘一『仏教思想へのいざない』（大法輪閣）2,100円

科目名	禅学の基礎			担当教員名	山 川 宗 玄	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	水曜日・2	2	講義	15	必修

サブタイトル	修行のプロセス
--------	---------

【D P (ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・十牛図の総序の読み下しができ、その内容を理解することが出来る。
- ・十牛図の第一から第十までの内容を理解し、修行の過程を説明することが出来る。
- ・自己の人生との関連に於いて、十牛図の第何番目が、今現在該当するか説明が出来る。

【授業概要】

禅の基本理念を表す「十牛図」は、悟り・自性・仏心というものを牛に例え、自己の心の成長（転迷）に従い、その修證の階梯を十段階に分けて説いている。本講義に依って、本当の心の参究に加わってもらえればと思う。しかし、理念のみでは片手落ちというもので、修（坐禅の行）を通して更に参究が究明なることを期待する。授業の進度は、学生の習熟度により若干の変更あり。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	「十牛図」 解題及び坐禅について (講義)	禅宗四部録、坐禅
②	「十牛図」 その周辺「坐禅儀」 解説 (講義)	摂心、修行
③	正眼寺開講式参加 (講義)	廓庵禅師、慈覚大師宗頤
④	「十牛図」 総序 (講義)	衆生、仏、迷い、悟り
⑤	「十牛図」 第一 (講義)	尋牛
⑥	「十牛図」 第二 (講義)	見跡
⑦	「十牛図」 第三 (講義)	見牛
⑧	「十牛図」 第四 (講義)	得牛
⑨	「十牛図」 第五 (講義)	牧牛
⑩	「十牛図」 第六 (講義)	騎牛帰家
⑪	「十牛図」 第七 (講義)	忘牛存人
⑫	「十牛図」 第八 (講義)	人牛俱忘
⑬	「十牛図」 第九 (講義)	返本還源
⑭	「十牛図」 第十 (講義)	入廂垂手
⑮	「十牛図」 まとめ	
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

予習：語録の予定のところまで、読み方と語句について調べ授業に備える。
 復習：語録の進んだところまで、読み方とその内容について再確認をする。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

- ・4/15 開講式には出席のこと。
- ・定期試験（70％）と授業への取り組み（30％）で単位認定をする。尚、授業回数の5分の1以上欠席をすると、定期（筆記）試験の受験資格を失う。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：作成・配布する
 参考文献：禅の語録 16『信心銘・証道歌・十牛図・坐禅儀』筑摩書房

科目名	仏教史概論			担当教員名	池田 丈明	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	秋	木曜日・3	2	講義	15	選択必修

サブタイトル	仏教と社会
--------	-------

【D P (ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・ 仏教の基本教説を習得し、その意味を説明することができる。
- ・ 日本中世の仏教観の大きな転換となった「鎌倉新仏教中心論」から「顕密体制論」への移行を理解することができる。
- ・ ポスト顕密体制論を模索する広い視野を持つことができる。

【授業概要】

インド・中国・日本にわたって仏教の歴史を概説します。この講義では、歴史学の観点から仏教と社会の関係、つまり仏僧や仏教教団は社会との交渉の中でどのように思想を形成し、またどのように社会へ働きかけていったのか解説を試みます。

インド・中国・日本の一般的な歴史を再確認し、その中に仏教史を位置づけていく予定です。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	はじめに ―原始仏教― (講義)	ゴータマ・ブッダ
②	仏教の基本教説 (講義)	因果の道理・業―輪廻
③	仏教の基本教説と仏教の近代主義 (講義)	仏教の近代主義
④	小乗仏教と大乘仏教 (講義)	小乗仏教、大乘仏教
⑤	仏典の言語 (講義)	パーリ語・サンスクリット語
⑥	大乘仏教の菩薩思想 (講義)	菩提薩埵、一切衆生
⑦	中国仏教の隆盛 (講義)	隋(581～618)、唐(618～907)
⑧	密教(金剛乗仏教)の成立 (講義)	中期密教、恵果
⑨	古代の日本仏教 (講義)	鎮護国家の思想
⑩	中世前期の日本仏教 (講義)	鎌倉新仏教中心論
⑪	中世前期の日本仏教 (講義)	顕密体制論
⑫	中世後期の日本仏教 (講義)	ポスト顕密体制論
⑬	中世後期の日本仏教 (講義)	中世仏教の枠組み再考
⑭	近世の日本仏教 (講義)	仏教墮落論再考、儒教
⑮	まとめ ―仏教の近代主義― (講義)	近代主義
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

受講者は、必ず学習成果(キーワード)を事前に調べたうえで、授業に臨んでください。また、議論の後に生じた疑問・質問は、オフィスアワーの時間に聞いてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験(筆記試験70%程度)と授業への取り組み(20%)と適宜提出していただく小レポート(10%)で成績を評価します。なお、授業時数の5分の1以上欠席すると、筆記試験の受験資格がなくなりますので注意してください。

【テキスト及び参考文献】

『臨済宗妙心寺派 勤行聖典』(臨済宗妙心寺派宗務本所、税込み1,000円)

科目名	禅宗史概論			担当教員名	竹 貫 元 勝	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	金曜日・3, 4	2	講義	15	必修

サブタイトル	禅宗の史的展開を概観する
--------	--------------

【D P (ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・禅宗史に関する専門用語の読み方を習得し内容を理解し、禅宗史料を分析することができる。
- ・禅宗の歴史についての理解を深め、自の視点での禅宗史が語ることができる。
- ・今日の文化に禅の影響を見出し、より深く理解しその重要性を説くことができる。

【授業概要】

本講義では、インド、中国、日本における禅宗の歩んできた道を概説する。ことに日本のそれについては禅僧、その宗風、帰依者・外護者など禅と関わった人々、禅寺・庭園、絵画・墨蹟、漢詩文、茶と禅など文化に関して学んでもらい、これによって今日、さらに将来のことを考える思考力を身につけます。また、テーマを設定し、各々の考えを述べて頂き、議論をします。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	禅宗史研究の基本的文献 (講義)	基本的な辞典、年表など
②	研究史 (講義)	先学の研究成果と今後の課題
③	禅宗の起こり (講義)	釈尊、拈華微笑、西天二十八祖
④	中国禅宗のはじまりと展開 (講義)	達磨、慧可、六祖慧能、五家七宗
⑤	中国臨済宗の展開 (講義)	臨済義玄、黄龍派、楊岐派
⑥	日本禅宗のはじまり (講義)	古代における禅宗の伝来
⑦	鎌倉期の禅宗 (講義)	栄西、道元、蘭溪道隆、鎌倉武士
⑧	南北朝期の禅宗 (講義)	後醍醐天皇、花園天皇、夢窓国師、大燈国師、関山慧玄
⑨	五山と山隣派 (講義)	五山制度、大徳寺、妙心寺
⑩	近世の禅宗 (講義)	紫衣事件、隠元、古月、白隠
⑪	近現代の禅宗 (講義)	廃仏毀釈、明治の禅匠、鈴木大拙
⑫	禅の造形 (講義)	禅院建築、枯山水庭園、水墨画
⑬	禅と文字 (講義)	五山文学
⑭	禅の生活文化 (講義)	禅と茶、精進料理、普茶料理
⑮	まとめ (発表)	
⑯	筆記試験	

【授業外学修 予習・復習など】

禅宗史に関する概説書を必ず読むこと。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

試験 100%

【テキスト及び参考文献】

テキストは適宜配布する。

参考文献：竹貫元勝著『日本禅宗史』大蔵出版 一九八九年 竹貫元勝著『新日本禅宗史』禅文化研究所 平成十一年

科目名	禅と人間			担当教員名	山川宗玄	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
2	秋	水曜日・2	2	講義	15	必修

サブタイトル	見性とは何か
--------	--------

【D P (ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・『六祖壇経』の読み下しができ、その内容を理解することが出来る。
- ・『六祖壇経』における見性について説明することが出来る。
- ・六祖の禅宗界における、革新性を理解し説明することが出来る。

【授業概要】

唐代の初め、六祖慧能大鑑禪師より禅の根本的な教えである『六祖壇経』が説かれた。禅を学ぶ者は、この原点に一度は返らねばならない。また見性という、今日臨済禪師が一番大事にしなければならぬ、宗教的体験を平易に指示、説かれたものであるから、その内容を理解し説明できる能力を身につけることを目的として取り組む。授業の進度は、学生の習熟度により若干の変更あり。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	『六祖壇経』の解題と達磨より六祖に到る禅宗史 (講義)	達磨、慧可、僧璨、道信、弘忍
②	序文 (講義)	慧能
③	本文 縁起説法門 (講義)	魔訶般若波羅蜜、無相戒
④	本文 悟法伝衣門 (講義)	金剛経「応無所住 而生其心」 黄梅
⑤	本文 悟法伝衣門 (講義)	人即有南北 佛性無南北
⑥	本文 悟法伝衣門 (講義)	身是菩提樹 心如明鏡臺 時時勤佛拭 莫使有塵埃
⑦	本文 悟法伝衣門 (講義)	菩提本無樹 明鏡亦無臺 本來無一物 何處有塵垢
⑧	本文 為時衆説定慧門 (講義)	禅、定慧
⑨	本文 為時衆説定慧門 (講義)	禅、定慧
⑩	本文 教授坐禅門 (講義)	無念、無相、無住
⑪	本文 教授坐禅門 (講義)	無念、無相、無住
⑫	本文 説伝吉懺悔発願門 (講義)	無想戒、清浄法身仏、四弘誓願
⑬	本文 説伝吉懺悔発願門 (講義)	三帰依戒、懺悔、三宝
⑭	本文 説一体三身仏相門 (講義)	魔訶般若波羅蜜
⑮	まとめ (講義)	
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

予習：『六祖壇経』の予定のところまで、読み方と語句について調べ授業に備える。
復習：『六祖壇経』の進んだところまで、読み方とその内容について再確認をする。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

- ・2/1 講了式には出席のこと。
- ・定期試験 (70%) と授業への取り組み (30%) で単位認定をする。尚、授業回数の5分の1以上欠席をすると、定期 (筆記) 試験の受験資格を失う。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：作成・配布する
参考文献：『禅語録』 柳田聖山著 中央公論社

科目名	提唱・禅語録Ⅰa／Ⅱa		担当教員名	山川宗玄		
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	春	水曜日・1	2	講義	15	必修

サブタイトル	さとの説法
--------	-------

【DP(ディプロマポリシー)】

③建学の精神(行学一体)を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性をもち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・禅の修行の道筋を理解する。
- ・漢文の読解力を高める。
- ・個々人の様々な問題に対して解決意思力を向上させる。

【授業概要】

提唱とは提(ひっさ)げ唱(とな)えるということで、禅の専門道場に於ける独特の講座である。それは一般的の講義・講話と異なり、道場の指導者、これを師家(しけ)というが、師家の実体験を丸出しにした説話である。修行の方向と人生全般に亘る師家の講義ともいえる。そして、修行の先達である祖師方の行履(あんり)を、その語録から学ぶ。聴講者の心の開発に与ればと思う。

尚、正眼僧堂で修行中の雲水と共に聴講となるが、その形式も含め提唱なのだとして理解してもらいたい。今年度は臨濟禅の語録の代表ともいべき無門慧開禅師の「無門関」を講本とする。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	提唱ガイダンス 祖師、語録の意味	提唱、祖師、語録、
②	提唱ガイダンス「碧巖録」の生まれるまで 碧巖録	中国の祖師方から大応、大燈、関山に至る
③	碧巖録 第7則 慧超問佛 (講義)	
④	” 第8則 翠岩眉毛 (講義)	
⑤	” 第9則 趙州四門 (講義)	
⑥	” 第10則 睦州掠虚漢 (講義)	
⑦	” 第11則 黄檗瞳酒糟漢 (講義)	
⑧	” 第12則 洞山麻三斤 (講義)	
⑨	” 第13則 巴陵銀椀裏雪 (講義)	
⑩	” 第14則 雲門一代時教 (講義)	
⑪	” 第15則 雲門倒一説 (講義)	
⑫	” 第16則 鏡清啐啄機 (講義)	
⑬	” 第17則 香林坐久成勞 (講義)	
⑭	” 第18則 忠國師無縫搭 (講義)	
⑮	” 第19則 俱胝只豎一指 (講義)	
⑯	定期試験	

※但し、僧堂の提唱との兼ね合いで、必ずしもこの順番通りではない。

【授業外学修 予習・復習など】

予習：語録の予定のところまで、読み方と語句について調べ授業に備える。

復習：語録の進んだところまで、読み方とその内容について再確認をする。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

- ・4/15 開講式には出席のこと。
- ・定期試験(70%)と授業への取り組み(30%)で単位認定をする。尚、授業回数の5分の1以上の欠席をすると、定期(筆記)試験の受験資格を失う。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：作成・配布する。

参考文献：禅の語録18 無門関(筑摩書房)その他多数あり

科目名	提唱・禅語録 I b / II b		担当教員名	山 川 宗 玄		
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	春	水曜日・1	2	講義	15	必修

サブタイトル	さとの説法
--------	-------

【D P (ディプロマポリシー)】

③建学の精神（行学一体）を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性をもち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・ 禅の修行の道筋を理解する。
- ・ 漢文の読解力を高める。
- ・ 個々人の様々な問題に対して解決意思力を向上させる。

【授業概要】

提唱とは提（ひっさ）げ唱（とな）えるということで、禅の専門道場に於ける独特の講座である。それは一般的の講義・講話と異なり、道場の指導者、これを師家（しけ）というが、師家の実体験を丸出しにした説話である。修行の方向と人生全般に亘る師家の講義ともいえる。そして、修行の先達である祖師方の行履（あんり）を、その語録から学ぶ。聴講者の心の開発に与ればと思う。

I a / II a のとおりであるが、専門道場（僧堂）では1年を2期に分けそれぞれ雨安居（4月～7月）、雪安居（11月～1月）のこの期間（制中という）のみ提唱を行う。よって秋学期も引き続き、同じ語録を読み解いていくことにする。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	提唱ガイダンス 祖師、語録の意味	提唱、祖師、語録、
②	提唱ガイダンス 他の語録等のガイダンス 碧巖録	中国の祖師方から大応、大燈、関山に至る
③	碧巖録 第20則 翠微禅板 (講義)	
④	” 第21則 智門蓮華荷葉 (講義)	
⑤	” 第22則 雪峯鼈花蛇 (講義)	
⑥	” 第23則 保福長慶遊山次 (講義)	
⑦	” 第24則 鏡麈老牯牛 (講義)	
⑧	” 第25則 蓮華峯拈拄杖 (講義)	
⑨	” 第26則 百丈獨坐大雄峰 (講義)	
⑩	” 第27則 雲門體露金風 (講義)	
⑪	” 第28則 南泉不説底法 (講義)	
⑫	” 第29則 大隋隨他去也 (講義)	
⑬	” 第30則 趙州第蘿蔔頭 (講義)	
⑭	” 第31則 麻谷持錫遠床 (講義)	
⑮	” 第32則 定上座佇立 (講義)	
⑯	定期試験	

※但し、僧堂の提唱との兼ね合いで、必ずしもこの順番通りではない。

【授業外学修 予習・復習など】

予習：語録の予定のところまで、読み方と語句について調べ授業に備える。

復習：語録の進んだところまで、読み方とその内容について再確認をする。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

- ・ 2 / 1 講了式には出席のこと。
- ・ 定期試験（70%）と授業への取り組み（30%）で単位認定をする。尚、授業回数分の5分の1以上の欠席をすると、定期（筆記）試験の受験資格を失う。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：作成・配布する。

参考文献：禅の語録 18 無門関（筑摩書房）その他多数あり

科目名	禅の作法と心得 a			担当教員名	池田丈明・フォマルス アタレ	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	火曜日・2	1	演習	15	必修

サブタイトル	禅の実践
--------	------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・禅の修行における作法を習得して実践することができる
- ・禅の作法を実践しながら、他と強調して行動することができる。
- ・禅の心得を理解し、自分の人生や生活に応用することができる。

【授業概要】

禅の修行は長い歴史の中で修行道場において培われた。本学では禅の基本と建学の精神「行学一体」を学生生活の中に取り入れ、僧堂入門や僧侶育成を見据えて学生生活表やカリキュラムを組んでいる。本授業は、合掌などの基本作法、経や回向の読誦、食事作法などの実習を中心に学ぶものである。僧侶の道を目指さない学生であっても、禅の作法を習得してその心得を理解しこれからの人生に生かして頂きたい。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	オリエンテーション a: 合掌、叉手、拝作法 (講義)	印、仏足礼、我と仏、開浴
②	禅の作法 a: 低頭、問訊、坐禅堂内作法	単縁、上下
③	食事作法 a: 持鉢作法、食事作法 (講義・実習)	背筋、腕を守る、黙守
④	飯台看作法 a (講義・実習)	飯器、汁器、菜器、湯器、折水器
⑤	経典読誦作法 a: 声の出し方 (講義・実習)	木魚、大磬、小磬、維那
⑥	経典読誦作法 a: 維那作法、回向作法 (講義・実習)	経首、声明、大磬、小磬
⑦	茶礼作法 a: 供茶、総茶礼作法 (講義・実習)	侍者、湯器、折水器
⑧	禅宗鳴らし物作法 a: 支度と出頭 (講義・実習)	五声支度、連声出頭、七五三出頭
⑨	拝敷作法 a: 拝敷、座具展開作法 (講義・実習)	拝、袈裟
⑩	法鼓作法 a: 法鼓出頭の打ち方 (講義・実習)	雷鳴、角打
⑪	経典読誦作法 a: 大悲咒平挙、楞嚴咒 1 (講義・実習)	声明、行道、立誦、座誦
⑫	経典読誦作法 a: 大悲咒平挙、楞嚴咒 2 (講義・実習)	金剛鈴
⑬	特為茶作法 a: 縁高、天目台作法 (講義・実習)	尊侍、茶頭
⑭	衣畳作法 a: 着物・衣のたたみ方 (講義・実習)	たとう紙
⑮	施餓鬼作法 a: 水向け・焼香作法 (講義・実習)	生飯、洗米
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

キーワードや授業内容を図書館の江湖法式梵唄や臨済宗衲観等で事前学習してください。
また、授業で学んだ作法を、何度も繰り返し練習して体で覚えるようにしてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

経典暗唱試験 (般若心経、大悲咒、消災咒、開甘露門、飯台座経) 50%、持鉢展鉢試験 20%、授業取り組み 30% で単位を認定する。なお、授業時数の 5 分の 1 以上欠席 (遅刻・早退は 2 回で 1 回の欠席) すると試験受験資格を失格する。

【テキスト及び参考文献】

参考文献: 『江湖法式梵唄抄』監修 加藤隆芳・水野泰嶺・森弘宗 編集 法式梵唄刊行会 禅文化研究所刊 16,000 円
『臨済宗衲観』伊藤古鑑 其中堂刊 3,500 円

科目名	禅の作法と心得b			担当教員名	池田丈明・フォマルス アタレ	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	秋	火曜日・2	1	演習	15	必修

サブタイトル	禅の実践
--------	------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・禅の修行における作法を習得して実践することができる
- ・禅の作法を実践しながら、他と強調して行動することができる。
- ・禅の心得を理解し、自分の人生や生活に応用することができる。

【授業概要】

禅の修行は長い歴史の中で修行道場において培われた。本学では禅の基本と建学の精神「行学一体」を学生生活の中に取り入れ、僧堂入門や僧侶育成を見据えて学生生活表やカリキュラムを組んでいる。本授業は、合掌などの基本作法、経や回向の読誦、食事作法などの実習を中心に学ぶものである。僧侶の道を目指さない学生であっても、禅の作法を習得してその心得を理解しこれからの人生に生かして頂きたい。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	オリエンテーションb:合掌、叉手、拝作法 (講義)	印、仏足礼、我と仏、開浴
②	禅の作法b:低頭、問訊、坐禅堂内作法	単縁、上下
③	食事作法b:持鉢作法、食事作法 (講義・実習)	背筋、腕を守る、黙守
④	飯台看作法b (講義・実習)	飯器、汁器、菜器、湯器、折水器
⑤	経典読誦作法b:声の出し方 (講義・実習)	木魚、大磬、小磬、維那
⑥	経典読誦作法b:維那作法、回向作法 (講義・実習)	経首、声明、大磬、小磬
⑦	茶礼作法b:供茶、総茶礼作法 (講義・実習)	侍者、湯器、折水器
⑧	禅宗鳴らし物作法b:支度と出頭 (講義・実習)	五声支度、連声出頭、七五三出頭
⑨	拝敷作法b:拝敷、座具展開作法 (講義・実習)	拝、袈裟
⑩	法鼓作法b:法鼓出頭の打ち方 (講義・実習)	雷鳴、角打
⑪	経典読誦作法b:大悲咒平挙、楞嚴咒1 (講義・実習)	声明、行道、立誦、座誦
⑫	経典読誦作法b:大悲咒平挙、楞嚴咒2 (講義・実習)	金剛鈴
⑬	特為茶作法b:縁高、天目台作法 (講義・実習)	尊侍、茶頭
⑭	衣畳作法b:着物・衣のたたみ方 (講義・実習)	たとう紙
⑮	施餓鬼作法b:水向け・焼香作法 (講義・実習)	生飯、洗米
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

キーワードや授業内容を図書館の江湖法式梵唄や臨済宗衲観等で事前学習してください。
また、授業で学んだ作法を、何度も繰り返し練習して体で覚えるようにしてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

経典暗唱試験 (般若心経、大悲咒、消災咒、開甘露門、飯台座経) 50%、持鉢展鉢試験 20%、授業取り組み 30%で単位を認定する。なお、授業時数の5分の1以上欠席 (遅刻・早退は2回で1回の欠席) すると試験受験資格を失格する。

【テキスト及び参考文献】

参考文献:『江湖法式梵唄抄』監修 加藤隆芳・水野泰嶺・森弘宗 編集 法式梵唄刊行会 禅文化研究所刊 16,000円
『臨済宗衲観』伊藤古鑑 其中堂刊 3,500円

科目名		建学の精神フィールドワークⅠ／Ⅱ		担当教員名		学長・他教員	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1・2	秋	10/17～20	1	演習	15	必修	

サブタイトル	行の精神
--------	------

【DP(ディプロマポリシー)】

③建学の精神(行学一体)を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性をもち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・ 集団行動と集団生活を通して、社会性と協調性を身につけることが出来る。
- ・ 現代の信仰の現場を体験し、敬うという精神を身につけ説明することが出来る。
- ・ 自ら行動し、他人を気遣う心を養い身につけ実践することが出来る。

【授業概要】

本演習は、集中授業であり、3泊4日のフィールドワーク(学外研修)を中心とする。本年度はお遍路・四国八十八ヶ所巡り香川県で、85番八栗寺から88番大窪寺、更に1番霊山寺、最後に高野山までを予定している。春学期に説明会を開き、班分けをし、各班の担当寺院を決める。各班はそれぞれで「お経、回向、真言」を練習し、また担当寺院について下調べをすること。フィールドワーク当日は各班で寺院の説明と、読経の「維那」を行ってもらう。なお、天候等により、日程については若干の変更あり。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	6/7 説明会	事前調査
②	9/26 班別読経説明会 (グループ発表)	回向、真言
③	9/26 フィールドワーク練習 (演習)	日龍峯寺
④	9/26 フィールドワーク練習 (演習)	日龍峯寺
⑤	9/26 フィールドワーク練習 (演習)	日龍峯寺
⑥	9/26 フィールドワーク練習 (演習)	日龍峯寺
⑦	10/18 研修第1日目 (演習)	85番八栗寺登山口
⑧	10/18 研修第1日目 (演習)	85番八栗寺
⑨	10/18 研修第2日目 (演習)	85番八栗寺登山口
⑩	10/18 研修第2日目 (演習)	86番志度寺
⑪	10/19 研修第2日目 (演習)	86番志度寺前
⑫	10/19 研修第2日目 (演習)	87番長尾寺
⑬	10/19 研修第3日目 (演習)	87番長尾寺前
⑭	10/20 研修第3日目 (演習)	88番大窪寺
⑮	10/20 研修第3日目 (演習)	高野山へ移動
⑯	10/20 研修第4日目 (演習)	高野山金剛峰寺

【授業外学修 予習・復習など】

班分け後、各班で「お経、回向、真言」を練習し、また担当寺院について下調べをすること。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

単位はフィールドワーク練習1回(20%)・読経発表会(10%)・フィールドワーク研修(50%)への取り組み方、研修後のレポート(20%)によって評価する。本学の学生は卒業までに2度フィールドワークを実修しなければならない。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：必要な資料はコピーを配布します。 参考文献：適宜紹介します。

*平成28年度までの入学生対象の開講科目です。

科目名		卒業実践研究 a		担当教員名	各指導教官	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
2	春	木曜日・3	卒業実践研究bと合わせて2単位	演習	15	必修

サブタイトル	随所に主となる
--------	---------

【D P (ディプロマポリシー)】
④主体的自己を確立することにより、さまざまな問題を分析し解決することができる能力を身につけている。

【到達目標】

- ・章立てを決めた上で、参考文献や資料を活用し各自の表現で論文を完成する。
- ・実技やフィールドワーク等を行い、20回分の実践記録を作成し論文と関連づける。
- ・卒業実践研究発表会において実践論文の成果を各自の言葉で報告する。

【授業概要】

本研究は、学生の興味関心のあるテーマを選定し、論文指導教官（本学専任教員）のもとで論文を作成し、同時に実践指導教官（非常勤講師を含む）のもとで実践記録を積み重ね、実践の習得に努めるものです。1回生の後期に、教務部が行う「卒業実践研究アンケート」に必要事項を記入し提出すると、その後に論文指導教官が発表されます。論文指導教官が決まった学生は、実践指導教官になっていただく先生に願ひ出ます。指導教官のもとで資料を集め、必要な文献の読解などを行い、論文の骨子、章立てを作成しながら、実践の習得を行います。章立てを作成した後に、「卒業実践研究論文計画書」を提出し、実践論文の構想を卒業実践研究構想発表会にて発表します（卒業実践研究b（秋学期）から始めた学生の概要等は、卒業実践研究a（春学期）に準じます）。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	卒業実践研究について（教務部ガイダンス）	
②	アンケートにより指導教官の発表	
③	実践論文記録用紙の書き方等について	
④	研究、実践指導	参考文献・資料の収集
⑤	研究、実践指導	章立ての作成
⑥	研究、実践指導	実践内容を決定し計画立案
⑦	卒業実践研究構想発表会	卒業実践研究論文計画書の提出
⑧	研究、実践指導	参考文献・資料の読解
⑨	研究、実践指導	実践記録の作成
⑩	研究、実践指導	（巡見・作品制作等の作業）
⑪	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑫	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑬	第1次提出	指導教官によるコメント・添削指導
⑭	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑮	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑯	研究、実践指導	研究相談・状況報告

【授業外学修 予習・復習など】
教官の指示に従い、計画的に研究と実践を進めるようにしてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】
主査・副査の評価（40%程度）及び発表会の審査点（60%程度）による総合評価とします。この演習に関わる日程等については、教務部より資料を配付します。

【テキスト及び参考文献】
テキスト：
参考文献：

科目名		卒業実践研究 b		担当教員名	各指導教官	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
2	秋	木曜日・3	卒業実践研究 a と合わせて 2 単位	演習	15	必修

サブタイトル	随所に主となる
--------	---------

【DP (ディプロマポリシー)】
④主体的自己を確立することにより、さまざまな問題を分析し解決することができる能力を身につけている。

【到達目標】

- ・章立てを決めた上で、参考文献や資料を活用し各自の表現で論文を完成する。
- ・実技やフィールドワーク等を行い、20 回分の実践記録を作成し論文と関連づける。
- ・卒業実践研究発表会において実践論文の成果を各自の言葉で報告する。

【授業概要】

本研究は、卒業実践研究 a を受けて、構想により論文及び実践研究を指導教官のもとですすめ、ワードあるいは一太郎ファイルに保存したうえで A 4 用紙に印刷し、期限日までに教務部へ論文一式を提出します。その後、全学合同発表会で各自発表を行います（卒業実践研究 b 〈秋学期〉から始めた学生の概要等は、卒業実践研究 a 〈春学期〉に準じます）。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	研究、実践指導	研究相談・状況報告
②	研究、実践指導	研究相談・状況報告
③	研究、実践指導	研究相談・状況報告
④	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑤	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑥	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑦	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑧	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑨	第 2 次提出	指導教官によるコメント・添削指導
⑩	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑪	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑫	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑬	第 3 次提出	指導教官によるコメント・添削指導
⑭	研究、実践指導	提出論文一式の完成を確認
⑮	実践論文提出	
⑯	卒業実践論文発表会	

【授業外学修 予習・復習など】
教官の指示に従い、計画的に研究と実践を進めるようにしてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】
主査・副査の評価（40%程度）及び発表会の審査点（60%程度）による総合評価とします。この演習に関わる日程等については、教務部より資料を配付します。

【テキスト及び参考文献】
テキスト：
参考文献：

科目名	布教学 a			担当教員名	中西東峰	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
2	春	水曜日・3	2	講義	15	選択

サブタイトル	暮らしに生きる禅仏教
--------	------------

【D P (ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな教養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していく事ができる。③建学の精神(行学一体)を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・ 仏教や禅を学び、易しくわかりやすく法話することができる。
- ・ 仏教や禅のこころを体得し、自らが暮らしの中で活かすことができる。
- ・ 聴聞、思索し、学修することにより、聴衆の年齢等に合わせた法話をすることができる。

【授業概要】

本講義では布教における基本的な心構えや方法等を学び、仏教や禅の根本思想・教義の理解を促せるように人々の関心を起こし、その内容を説明できる能力を身につけることを目的として取り組む。学生同志の互評に講師が講評を加える実践体験形式。お互いの持ち味を出し合う全員参加を進める。授業の進度は、学生の習熟度により若干の変更あり。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	布教の心得[I]	自覚の宗教
②	布教の心得[II]	起承転結
③	基本の仏教～三宝 (布教実習)	仏法僧 一体三宝
④	基本の仏教～三毒 (布教実習)	貪瞋痴 身から出たサビ
⑤	基本の仏教～三学 (布教実習)	戒定慧 身を修する
⑥	基本の仏教～三業 (布教実習)	身口意 因果応報
⑦	基本の仏教～三昧 (布教実習)	さとり
⑧	基本の仏教～四法印・諸行無常 (布教実習)	全てがうつりゆく
⑨	基本の仏教～四法印・諸法無我 (布教実習)	全てにわれ無し
⑩	基本の仏教～四法印・涅槃寂静 (布教実習)	全ての安らぎ
⑪	基本の仏教～四法印・一切皆苦 (布教実習)	全ては苦しみ
⑫	基本の仏教～四摂法・布施 (布教実習)	喜びを与え合いましょう
⑬	基本の仏教～四摂法・愛語 (布教実習)	優しい言葉で語り合いましょう
⑭	基本の仏教～四摂法・利行 (布教実習)	心のこもった助け合いをしましょう
⑮	基本の仏教～四摂法・同事 (布教実習)	人の身になって尽くしましょう
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

この授業の履修にあたり、学習成果(キーワード)の予習(読み方、意味等を調べる)を行い、授業後にはその内容について簡単にまとめて下さい。質問等は授業中に受け付けます。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は、定期試験(筆記試験 40%)、授業での法話発表(40%)、授業への取り組み姿勢(20%)により行います。

なお、授業時数の5分の1以上の欠席(遅刻・早退は2回で1回の欠席)をすると失格となります。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：随時資料を配布致します。

参考文献：必要な文献については、講義中に適宜紹介します。

科目名	布教学b			担当教員名	中西東峰	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
2	秋	水曜日・3	2	講義	15	選択

サブタイトル	暮らしに生きる禅仏教
--------	------------

【D P (ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。③建学の精神(行学一体)を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・ 仏教や禅を学び、易しくわかりやすく法話することができる。
- ・ 仏教や禅のこころを体得し、自らが暮らしの中で活かすことができる。
- ・ 聴聞、思索し、学修することにより、聴衆の年齢等に合わせた法話をすることができる。

【授業概要】

本講義では布教における基本的な心構えや方法等を学び、仏教や禅の根本思想・教義の理解を促せるように人々の関心を起こし、その内容を説明できる能力を身につけることを目的として取り組む。学生同志の互評に講師が講評を加える実践体験形式。お互いの持ち味を出し合う全員参加で進める。授業の進度は、学生の習熟度により若干の変更あり。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	布教の心得[I]	自覚の宗教
②	布教の心得[II]	起承転結
③	基本の仏教～四聖諦 (布教実習)	初転法輪
④	基本の仏教～四恩 (布教実習)	報恩謝徳
⑤	基本の仏教～四苦八苦 (布教実習)	四門出遊
⑥	基本の仏教～愛別離苦 (布教実習)	大切なものとの別れ
⑦	基本の仏教～怨憎会苦 (布教実習)	嫌いな人との出会い
⑧	基本の仏教～求不得苦 (布教実習)	求め求めても不満足
⑨	基本の仏教～五蘊盛苦 (布教実習)	生きるだけですます
⑩	基本の仏教～布施波羅蜜 (布教実習)	共に力になり合いましょう
⑪	基本の仏教～持戒波羅蜜 (布教実習)	共にきまりを守りましょう
⑫	基本の仏教～忍辱波羅蜜 (布教実習)	共に辛抱し合いましょう
⑬	基本の仏教～精進波羅蜜 (布教実習)	共に強く励みましょう
⑭	基本の仏教～禅定波羅蜜 (布教実習)	共に静けさを保ちましょう
⑮	基本の仏教～智慧波羅蜜 (布教実習)	共に信心の光を掲げましょう
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

この授業の履修にあたり、学習成果(キーワード)の予習(読み方、意味等を調べる)を行い、授業後にはその内容について簡単にまとめて下さい。質問等は授業中に受け付けます。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は、定期試験(筆記試験 40%)、授業での法話発表(40%)、授業への取り組み姿勢(20%)により行います。

なお、授業時数の5分の1以上の欠席(遅刻・早退は2回で1回の欠席)をすると失格となります。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：随時資料を配布致します。

参考文献：必要な文献については、講義中に適宜紹介します。

科目名	僧侶必携 a			担当教員名	水野和彦	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
2	春	月曜日・1	2	講義	15	選択

サブタイトル	宗門人の基礎知識
--------	----------

【D P (ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。③建学の精神（行学一体）を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・ 仏教や禅の基礎知識についての理解を深めることが出来る。
- ・ 仏教や禅の意義について他者に向かって表現することが出来る。
- ・ 仏教や禅の知識に即して寺門の運営や檀信徒の教化が出来る。

【授業概要】

臨済宗妙心寺派では、寺院の住職となるために、前堂職研修会において『僧侶必携』をテキストとして試験が行われている。宗門人としての基礎知識が網羅されており、檀信徒からの質問への答えや教化のテキストとなっている。本講義は、『僧侶必携』をテキストとして、仏教や禅の基礎知識を学び、宗門人としての資質を習得して頂きたい。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	ガイダンス、祖師の語・禅語について	祖師、禅語
②	仏教用語Ⅰ：三学、三法印、四諦、八正道	三学、三法印、四諦、八正道
③	仏教用語Ⅱ：帰依三宝、三界、六道、縁起	帰依三宝、三界、六道、縁起
④	仏教用語Ⅲ：中道、三業、三毒、五欲	中道、三業、三毒、五欲
⑤	祖師伝Ⅰ：釈尊、菩提達磨、百丈懷海、臨済義玄	釈尊、菩提達磨、百丈懷海、臨済義玄
⑥	祖師伝Ⅱ：松源崇岳、栄西、道元、南浦紹明	松源崇岳、栄西、道元、南浦紹明
⑦	祖師伝Ⅲ：宗峰妙超、関山慧玄、授翁宗弼、無因宗因	宗峰妙超、関山慧玄、授翁宗弼、無因宗因
⑧	経典・語録Ⅰ：心経、消災咒、大悲咒、信心銘、証道歌	心経、消災咒、大悲咒、信心銘、証道歌
⑨	経典・語録Ⅱ：楞嚴咒、観音経、開甘露門、十牛図、坐禅儀	楞嚴咒、観音経、開甘露門、十牛図、坐禅儀
⑩	経典・語録Ⅲ：仏頂尊、金剛経、六祖壇経、伝心法要	仏頂尊、金剛経、六祖壇経、伝心法要
⑪	禅寺：建仁寺、東福寺、南禅寺、大徳寺、妙心寺	建仁寺、東福寺、南禅寺、大徳寺、妙心寺
⑫	仏像：釈迦～大日如来、文殊～観音菩薩	釈迦～大日如来、文殊～観音菩薩
⑬	行事：日課行事、月例行事、修正会、善月祈祷	日課行事、月例行事、修正会、善月祈祷
⑭	禅文化：七堂伽藍～経蔵	七堂伽藍～経蔵
⑮	人権擁護：同和問題、人権、差別、同宗連	同和問題、人権、差別、同宗連
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

授業に慣れた頃から各人1～2回、キーワードをテーマにしてプレゼンテーション（法話など）を行っていただきます（1人10分程度）。そして聴講者全員で評価します。また、キーワードの意味を理解するように予習を行うこと。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

課題への取り組み発表40%、定期試験（筆記試験）50%、授業への取組10%、なお授業時数の5分の1以上欠席（遅刻・早退は2回で1回の欠席）すると試験受験資格を失格します。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『僧侶必携』妙心寺派教化研究会 妙心寺宗務本所 1,000円
参考文献：必要な文献については、講義中に適宜紹介する。

科目名	僧侶必携b			担当教員名	水野和彦	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
2	秋	月曜日・1	2	講義	15	選択

サブタイトル	宗門人の基礎知識
--------	----------

【D P (ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。③建学の精神（行学一体）を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・ 仏教や禅の基礎知識についての理解を深めることが出来る。
- ・ 仏教や禅の意義について他者に向かって表現することが出来る。
- ・ 仏教や禅の知識に即して寺門の運営や檀信徒の教化が出来る。

【授業概要】

臨済宗妙心寺派では、寺院の住職となるために、前堂職研修会において『僧侶必携』をテキストとして試験が行われている。宗門人としての基礎知識が網羅されており、檀信徒からの質問への答えや教化のテキストとなっている。本講義は、『僧侶必携』をテキストとして、仏教や禅の基礎知識を学び、宗門人としての資質を習得して頂きたい。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	ガイダンス、祖師の言葉、禅語	祖師、禅語
②	仏教用語Ⅰ：六波羅蜜、無財施、懺悔、大乘	六波羅蜜、無財施、懺悔、大乘
③	仏教用語Ⅱ：菩提心、誓願、四攝法、四無量心	菩提心、誓願、四攝法、四無量心
④	仏教用語Ⅲ：五蘊、空、三聚淨戒、五眼	五蘊、空、三聚淨戒、五眼
⑤	祖師伝Ⅰ：日峰宗舜、義天玄詔、雪江宗深、景川宗隆	日峰宗舜、義天玄詔、雪江宗深、景川宗隆
⑥	祖師伝Ⅱ：悟溪宗頓、特芳禅傑、東陽英朝、愚堂東寔	悟溪宗頓、特芳禅傑、東陽英朝、愚堂東寔
⑦	祖師伝Ⅲ：盤珪永琢、白隠慧鶴、花園法皇	盤珪永琢、白隠慧鶴、花園法皇
⑧	經典・語録Ⅰ：舎利礼文、四弘誓願文、臨済録、趙州録	舎利礼文、四弘誓願文、臨済録、趙州録
⑨	經典・語録Ⅱ：食事五観文、宗門安心章、碧巖録、無門関	食事五観文、宗門安心章、碧巖録、無門関
⑩	經典・語録Ⅲ：坐禅和讃、十句観音経、回向、禅関策進他	坐禅和讃、十句観音経、回向、禅関策進他
⑪	禅寺：天龍寺、相国寺、万福寺、建長寺、円覚寺	天龍寺、相国寺、万福寺、建長寺、円覚寺
⑫	仏像：地蔵菩薩～韋駄天	地蔵菩薩～韋駄天
⑬	行事：臨済忌～葬儀	臨済忌～葬儀
⑭	禅文化：東司～料理	東司～料理
⑮	人権擁護：差別～三世因果	差別～三世因果
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

授業に慣れた頃から各人1～2回、キーワードをテーマにしてプレゼンテーション（法話など）を行っていただきます（1人10分程度）。そして聴講者全員で評価します。また、キーワードの意味を理解するように予習を行うこと。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

課題への取り組み発表40%、定期試験（筆記試験）50%、授業への取組10%、なお授業時数の5分の1以上欠席（遅刻・早退は2回で1回の欠席）すると試験受験資格を失格します。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『僧侶必携』妙心寺派教化研究会 妙心寺宗務本所 1,000円
参考文献：必要な文献については、講義中に適宜紹介する。

科目名	坐禅Ⅰa／Ⅱa			担当教員名	青井有信・フォルムスアタレ	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	春	木曜日・2	1	実習	22.5	必修

サブタイトル 日常生活に坐禅を取り入れてみましょう。

【DP(ディプロマポリシー)】

③建学の精神(行学一体)を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性をもち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・よりよく生きるための手段として坐禅を習慣づけ、実践的な禅について理解を深めることができる。
- ・坐禅の方法、心構え、心の置き様を実践で身に付け経験を重ねることにより坐禅指導者として企業・団体研修等の場で活躍することができる。
- ・禅の心を理解し日本文化について、より理解を深めることができる。

【授業概要】

坐禅の実践により日常を断ち切り理屈や分別を離れ、今この瞬間を経験する。禅堂内での立居振舞や作法、礼儀を身に付ける。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	坐禅の心構えと準備 (実習)	事前の体調管理
②	禅堂でのマナーと心得 (実習)	合掌、低頭、叉手当胸
③	単への上がり方 (実習)	修行の場
④	足の組み方 (実習)	結跏趺坐、半跏趺坐
⑤	手の組み方 (実習)	結び手
⑥	口と目の作法 (実習)	口は軽く結び目は半眼
⑦	姿勢の調え方 (実習)	揺振によって坐相を調える
⑧	息の調え方 (実習)	長く深く腹式呼吸
⑨	心の調え方 (実習)	数息看
⑩	警策の受け方 (実習)	喝!
⑪	経行の仕方 (実習)	歩く坐禅
⑫	坐禅の終わり方 (実習)	ストレッチ
⑬	椅子坐禅の坐り方 (実習)	さまざまな場所で坐禅
⑭	実践と法話 (実習)	
⑮	実践と法話 (課題・発表・実習)	
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

授業前から身の回りを整理し体調を調え、授業に臨んでください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

授業に取り組む姿勢(70%)とレポートまたは筆記試験(30%)によって単位認定評価をします。7.5コマ不足分は、朝課、晩課、摂心晩課の参加により補います。授業時数は5分の1以上の欠席で不合格。遅刻、早退は2回で1回の欠席とします。

【テキスト及び参考文献】

テキスト:

参考文献:

科目名	坐禅 I b / II b			担当教員名	青井有信・フォルムスアタレ	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	秋	木曜日・2	1	実習	22.5	必修

サブタイトル 日常生活に坐禅を取り入れてみましょう。

【DP (ディプロマポリシー)】

③建学の精神（行学一体）を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性をもち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・よりよく生きるための手段として坐禅を習慣づけ、実践的な禅について理解を深めることができる。
- ・坐禅の方法、心構え、心の置き様を実践で身に付け経験を重ねることにより坐禅指導者として企業・団体研修等の場で活躍することができる。
- ・禅の心を理解し日本文化について、より理解を深めることができる。

【授業概要】

坐禅の実践により日常を断ち切り理屈や分別を離れ、今この瞬間を経験する。禅堂内での立居振舞や作法、礼儀を身に付ける。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	坐禅の心構えと準備 (実習)	事前の体調管理
②	禅堂でのマナーと心得 (実習)	合掌、低頭、叉手当胸
③	単への上がり方 (実習)	修行の場
④	足の組み方 (実習)	結跏趺坐、半跏趺坐
⑤	手の組み方 (実習)	結び手
⑥	口と目の作法 (実習)	口は軽く結び目は半眼
⑦	姿勢の調え方 (実習)	揺振によって坐相を調える
⑧	息の調え方 (実習)	長く深く腹式呼吸
⑨	心の調え方 (実習)	数息看
⑩	警策の受け方 (実習)	喝！
⑪	経行の仕方 (実習)	歩く坐禅
⑫	坐禅の終わり方 (実習)	ストレッチ
⑬	椅子坐禅の坐り方 (実習)	さまざまな場所で坐禅
⑭	実践と法話 (実習)	
⑮	実践と法話 (課題・発表・実習)	
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

授業前から身の回りを整理し体調を調え、授業に臨んでください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

授業に取り組む姿勢（70%）とレポートまたは筆記試験（30%）によって単位認定評価をします。7.5コマ不足分は、朝課、晩課、摂心晩課、正眼寺大摂心の参加により補います。授業時数は5分の1以上の欠席で不合格。遅刻、早退は2回で1回の欠席とします。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：

参考文献：

科目名	作務 I a / II a			担当教員名	フォーマルス アタレ・村瀬正光	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	春	木曜日・1	1	実習	22.5	必修

サブタイトル	動く坐禅
--------	------

【DP (ディプロマポリシー)】

③建学の精神(行学一体)を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している

【到達目標】

- ・個人に与えられた作務を最後までやり遂げ、作務に成りきることができる。
- ・作務を行っている時、他者と協調することができる。
- ・どんな時でも、どんな場所でも、自ら主人公となって作務をすることができる。

【授業概要】

禅は行住坐臥全てが修行であると説く。日常の雑務や労働など全てを修行と考える。作務は、禅的生活の本質を持ち、坐禅止静で得たものを実生活の場に適応するものである。白隠禅師は「動中の工夫は静中の工夫に勝ること百万倍」との語を残され、体を動かしながら心はひたすらに禅の探求に向けなければならない。この授業では、行ずることで自己の内面に気づき生き活きと表現できることを目的として学ぶものである。なお、行事や天候等の都合により内容が変更になることがある。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	講義 (作務の意義・進めかた等の説明)	成りきり、三昧
②	学内清掃・外掃除	箒を大切にす
③	畑 (園頭) 作務、耕作、種まき	命を育てる
④	学内清掃・外掃除	三昧への道
⑤	剪定・外掃除	庭を整える
⑥	梅干し作り	自給自足
⑦	学内清掃・内掃除	雑巾に成りきる
⑧	畑 (園頭) 作務、耕作、水まき	除草に成りきる
⑨	箒作り	箒を使う人を思う
⑩	学内清掃・溝掃除	見えない所をきれいにす
⑪	畑 (園頭) 作務、耕作、水まき	鍬に成りきる
⑫	畑 (園頭) 作務、耕作、水まき	めんどうを厭わない
⑬	竹細工	竹の性質を知る
⑭	学内清掃・外掃除	水への感謝
⑮	学内清掃・内掃除	環境を整える
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

授業前から身の回りを整理して体調を整え、授業に臨んでください。また、授業後に気がついた作務があれば、事前に提案してください。また、奉仕の心で行ってください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

正眼夏期講座荷担 (7.5 コマ分) に必ず参加すること (欠席するとコマ数が足りなくなります)。授業への取り組み姿勢 (50%) と筆記試験 (50%) によって評価し単位を認定します。授業時数の 5 分の 1 の欠席で不合格。遅刻は、2 回で 1 回の欠席となります。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：適時指示

参考文献：『雲水日記－絵で見る禅の修行生活』佐藤義英 禅文化研究所 廉価版 1,620 円

科目名	作務 I b / II b			担当教員名	フォーマルス アタレ・村瀬正光	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	秋	木曜日・1	1	実習	22.5	必修

サブタイトル	動く坐禅
--------	------

【DP (ディプロマポリシー)】

③建学の精神(行学一体)を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・個人に与えられた作務を最後までやり遂げ、作務に成りきることができる。
- ・作務を行っている時、他者と協調することができる。
- ・どんな時でも、どんな場所でも、自ら主人公となって作務をすることができる。

【授業概要】

禅は行住坐臥全てが修行であると説く。日常の雑務や労働など全てを修行と考える。作務は、禅的生活の本質を持ち、坐禅止静で得たものを実生活の場に適応するものである。白隠禅師は「動中の工夫は静中の工夫に勝ること百万倍」との語を残され、体を動かしながら心はひたすらに禅の探求に向けなければならない。この授業では、行ずることで自己の内面に気づき生き活きと表現できることを目的として学ぶものである。なお、行事や天候等の都合により内容が変更になることがある。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	講義 (作務の意義・進めかた等の説明)	成りきり、三昧
②	学内清掃・外掃除	箒を大切にす
③	畑 (園頭) 作務、耕作、種まき	命を育てる
④	学内清掃・外掃除	三昧への道
⑤	剪定・外掃除	庭を整える
⑥	わらじ作り	僧堂修行を支える
⑦	学内清掃・内掃除	雑巾に成りきる
⑧	畑 (園頭) 作務、耕作、水まき	除草に成りきる
⑨	箒作り	箒を使う人を思う
⑩	学内清掃・溝掃除	見えない所をきれいにす
⑪	畑 (園頭) 作務、耕作、水まき	鍬に成りきる
⑫	畑 (園頭) 作務、耕作、水まき	めんどろを厭わない
⑬	沢庵漬け	自給自足
⑭	学内清掃・外掃除	水への感謝
⑮	学内清掃・内掃除	環境を整える
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

授業前から身の回りを整理して体調を整え、授業に臨んでください。また、授業後に気がついた作務があれば、事前に提案してください。また、奉仕の心で行ってください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

正眼寺開山忌荷担 (7.5 コマ分) に必ず参加すること (欠席するとコマ数が足りなくなります)。授業への取り組み姿勢 (50%) と筆記試験 (50%) によって評価し単位を認定します。授業時数の 5 分の 1 の欠席で不合格。遅刻は、2 回で 1 回の欠席となります。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：適時指示

参考文献：『雲水日記－絵で見る禅の修行生活』佐藤義英 禅文化研究所 廉価版 1,620 円

科目名	仏教ボランティア I a / II a		担当教員名	羽場 寛		
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	春	木曜日・3, 4	2	実習	22.5	必修

サブタイトル	手を差し伸べる
--------	---------

【D P (ディプロマポリシー)】

③建学の精神（行学一体）を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・助けを求める多くの人、団体と出会い"手助け"の重要性を学ぶことができる。
- ・社会の発展を支える主要な担い手になる事ができる。
- ・困っている人に"手を差し伸べる"事が出来る一人の人間になる事が出来る。

【授業概要】

ボランティア活動の授業を通じて単なる奉仕活動ではなく地域と連携した実践活動を行い、チームワークの大切さに加え自己を発見し、社会に貢献できる人間形成を目指す。仏教学で学ぶ"慈悲の精神、利他心"をともに学び、地域とより強く結びつく場としたい。

授業であるが故に"自発性"にやや欠けるところがあるが、共に支援し合いながら「ボランティアは楽しい」と実感を持ってもらう。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	講義…ボランティアについて倫理、概況、実践紹介	ボランティア活動の趣旨を理解する
②	実践…地域のクリーン活動	社会貢献を体験する
③	実践…施設（ひまわりの丘）訪問	ふれあいの大切さを実感する
④	実践…施設（ひまわりの丘）訪問	ふれあいの大切さを実感する
⑤	実践…施設（ひまわりの丘）訪問	ふれあいの大切さを実感する
⑥	実践…施設（ひまわりの丘）訪問	ふれあいの大切さを実感する
⑦	実践…伊深ほくぶ保育園 プール清掃	人達とのふれあいを体感する
⑧	次週ブラジル子供交流（七夕）会の打ち合わせ	イベントを盛り上げる工夫をする
⑨	実践…七夕会	もてなす気持ちを養う
⑩	実践…施設（ひまわりの丘）訪問	ふれあいの大切さを実感する
⑪	実践…施設（ひまわりの丘）訪問	ふれあいの大切さを実感する
⑫	試験	
	1 コマは2時限です	

【授業外学修 予習・復習など】

良かったこと、反省点などを顧みて次の活動に生かす。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

授業、活動への取り組む（協力性、積極性、工夫性など）姿勢 80%、試験 20%

【テキスト及び参考文献】

テキスト：必要な時に資料コピーを配布する。

参考文献：適宜紹介します。

科目名	仏教ボランティア I b / II b			担当教員名	羽場 寛	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	秋	木曜日・3, 4	2	実習	22.5	必修

サブタイトル	手を差し伸べる
--------	---------

【D P (ディプロマポリシー)】

③建学の精神（行学一体）を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・助けを求める多くの人、団体と出会い"手助け"の重要性を学ぶことができる。
- ・社会の発展を支える主要な担い手になる事ができる。
- ・困っている人に"手を差し伸べる"事が出来る一人の人間になる事が出来る。

【授業概要】

ボランティア活動の授業を通じて単なる奉仕活動ではなく地域と連携した実践活動を行い、チームワークの大切さに加え自己を発見し、社会に貢献できる人間形成を目指す。仏教学で学ぶ"慈悲の精神、利他心"をともに学び、地域とより強く結びつく場としたい。

授業であるが故に"自発性"にやや欠けるところがあるが、共に支援し合いながら「ボランティアは楽しい」と実感を持ってもらう。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	講義…ボランティアについて倫理、概況、実践紹介	ボランティア活動の趣旨を理解する
②	実践…地域のクリーン活動	社会貢献を体験する
③	窯焚き手伝い	
④	実践…施設（ひまわりの丘）訪問	ふれあいの大切さを実感する
⑤	実践…施設（ひまわりの丘）訪問	ふれあいの大切さを実感する
⑥	実践…施設（ひまわりの丘）訪問	ふれあいの大切さを実感する
⑦	次週ブラジル子供交流（クリスマス）会の打ち合わせ	イベントを盛り上げる工夫をする
⑧	実践…クリスマス会	もてなす気持ちを養う
⑨	実践…施設（ひまわりの丘）訪問	ふれあいの大切さを実感する
⑩	実践…施設（ひまわりの丘）訪問	ふれあいの大切さを実感する
⑪	実践…施設（ひまわりの丘）訪問	ふれあいの大切さを実感する
⑫	試験	
	1 コマは2時限です	

【授業外学修 予習・復習など】

良かったこと、反省点などを顧みて次の活動に生かす。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

授業、活動への取り組む（協力性、積極性、工夫性など）姿勢 80%、試験 20%

【テキスト及び参考文献】

テキスト：必要な時に資料コピーを配布する。

参考文献：適宜紹介します。

科目名	仏教学 a			担当教員名	村 瀬 正 光	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	春	火曜日・1	2	講義	15	選択

サブタイトル	まごころの詩
--------	--------

【D P (ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・ 仏教や禅で使われる言葉について、その内容を理解し説明することができる。
- ・ 漢文で書かれた祖録の読み方を習得し、その内容を理解し説明することができる。
- ・ 仏教や禅の思想（さとりととは何か）を理解し、その特徴を説明することができる。

【授業概要】

本講義では禅宗四部録のうち三祖僧璨（?～606）著であろうと呼ばれる『信心銘』を取り上げる。「仏性」（本心・仏心）を徹見して「仏陀」（覚者）になることを説く『信心銘』の思想を学び、仏教や禅宗の根本思想・教義の理解と関心を深め、その内容を説明できる能力を身につけることを目的として取り組む。授業の進度は、学生の習熟度により若干の変更あり。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	はじめに 『信心銘』とは 至道無難・・・	道、謙謙、憎愛、
②	毫釐有差・・・	天地、順逆、
③	違順相争・・・	玄旨、
④	円同太虚・・・	太虚、取捨、
⑤	莫逐有縁・・・	縁、空、
⑥	心動歸止・・・	両辺、一種、
⑦	一種不通・・・	一種、
⑧	多言多慮・・・	多言多慮、絶言絶慮、
⑨	歸根得旨・・・	随照、返照、
⑩	前空転変・・・	妄見、真、
⑪	二見不住・・・	二見、是非、
⑫	二由一有・・・	一心、不生、万法、
⑬	無咎無法・・・	能、境、
⑭	境由能境・・・	両段、一空、
⑮	まとめ	
⑯	定期試験 回答合わせ	

【授業外学修 予習・復習など】

この授業の履修にあたり、学習成果（キーワード）の予習（読み方、意味等を調べる）を行い、授業後には講義の内容を確認して下さい。質問等は授業中、またはオフィスアワーで受け付けます。

授業計画・内容では、講義中に進捗状況を見ながら発表を行ってまいります。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は、定期試験（筆記試験 50%）、中間課題(40%)、授業への取り組み(10%)により評価を行う。なお、授業時数の5分の1以上欠席(遅刻・早退は2回で1回の欠席)すると失格。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：「禅宗四部録」の『信心銘』配布致します。
参考文献：禅の語録 16『信心銘・証道歌・十牛図・坐禅儀』筑摩書房
※その他、必要な文献については、講義中に適宜紹介する。

科目名	仏教学b			担当教員名	村瀬正光	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	秋	火曜日・1	2	講義	15	選択

サブタイトル	まごころの詩
--------	--------

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・ 仏教や禅で使われる言葉について、その内容を理解し説明することができる。
- ・ 漢文で書かれた祖録の読み方を習得し、その内容を理解し説明することができる。
- ・ 仏教や禅の思想(さとりととは何か)を理解し、その特徴を説明することができる。

【授業概要】

本講義では禅宗四部録のうち三祖僧璨(?~606)著であろうと呼ばれる『信心銘』を取り上げる。「仏性」(本心・仏心)を徹見して「仏陀」(覚者)になることを説く『信心銘』の思想を学び、仏教や禅宗の根本思想・教義の理解と関心を深め、その内容を説明できる能力を身につけることを目的として取り組む。授業の進度は、学生の習熟度により若干の変更あり。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	はじめに 『信心銘』とは 至道無難・・・	道、謙謙、憎愛、
②	一空同両・・・	万象、
③	大道体寛・・・	大道、小見、
④	執之失度・・・	自然、去、住、
⑤	任性合道・・・	道、逍遙、真、
⑥	不好勞神・・・	一乘、六塵、
⑦	六塵不悪・・・	正覚、無為、
⑧	法無異法・・・	法、心、
⑨	迷生寂乱・・・	迷、悟、二辺、
⑩	夢幻虚華・・・	夢、幻、
⑪	眼若不睡・・・	万法、一如、
⑫	一如体玄・・・	縁、
⑬	泯其所以・・・	止動、動止、
⑭	両既不成・・・	究竟、軌則、
⑮	まとめ	
⑯	定期試験 回答合わせ	

【授業外学修 予習・復習など】

この授業の履修にあたり、学習成果(キーワード)の予習(読み方、意味等を調べる)を行い、授業後には講義の内容を確認して下さい。質問等は授業中、またはオフィスアワーで受け付けます。

授業計画・内容では、講義中に進捗状況を見ながら発表を行ってまいります。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は、定期試験(筆記試験 50%)、中間課題(40%)、授業への取り組み(10%)により評価を行う。なお、授業時数の5分の1以上欠席(遅刻・早退は2回で1回の欠席)すると失格。

【テキスト及び参考文献】

テキスト:「禅宗四部録」の『信心銘』配布致します。
参考文献:禅の語録16『信心銘・証道歌・十牛図・坐禅儀』筑摩書房
※その他、必要な文献については、講義中に適宜紹介する。

科目名	禅学 a			担当教員名	村 瀬 正 光	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	春	月曜日・2	2	講義	15	選択

サブタイトル	さとの歌
--------	------

【D P (ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・ 仏教や禅で使われる言葉について、その内容を理解し説明することができる。
- ・ 漢文で書かれた祖録の読み方を習得し、その内容を理解し説明することができる。
- ・ 仏教や禅の思想（さとりとは何か）を理解し、その特徴を説明することができる。

【授業概要】

本講義では禅宗四部録のうち永嘉玄覺（675～713）著であろうと呼ばれる『証道歌』を取り上げる。『証道歌』に歌い上げる「南宗頓悟禅」の思想を学び、仏教や禅宗の根本思想・教義の理解と関心を深め、その内容を説明できる能力を身につけることを目的として取り組む。授業の進度は、学生の習熟度により若干の変更あり。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	はじめに 『証道歌』とは	
②	絶学無為閑道人・・・	絶学、無為、仏性、
③	法身覺了無一物・・・	無一物、五陰、三毒、
④	証実相 無人法・・・	実相、阿鼻、業、
⑤	頓覺了 如来禅・・・	如来禅、六度、六趣、
⑥	無罪福 無損益・・・	寂滅、塵鏡、
⑦	誰無念 誰無性・・・	無念、無生、不生、
⑧	法四大 莫把捉・・・	四大、諸行無常、空、大圓覺、
⑨	決定説 表真僧・・・	決定、印、
⑩	摩尼珠 人不識・・・	摩尼珠、如来藏、六般
⑪	浄五眼 得五力・・・	五眼、五力
⑫	常独行 常独歩・・・	達者、涅槃、
⑬	窮釋子 口称貧・・・	釋子、無價珍、
⑭	無價珍 用無尽・・・	三身、四智、八解、
⑮	まとめ	
⑯	定期試験 回答合わせ	

【授業外学修 予習・復習など】

この授業の履修にあたり、学習成果（キーワード）の予習（読み方、意味等を調べる）を行い、授業後には講義の内容を確認して下さい。質問等は授業中、またはオフィスアワーで受け付けます。

授業計画・内容では、講義中に進捗状況を見ながら発表を行ってまいります。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は、定期試験（筆記試験 50%）、中間課題(40%)、授業への取り組み(10%)により評価を行う。なお、授業時数の5分の1以上欠席(遅刻・早退は2回で1回の欠席)すると失格。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：「禅宗四部録」の『証道歌』配布致します。
参考文献：禅の語録 16『信心銘・証道歌・十牛図・坐禅儀』筑摩書房
※その他、必要な文献については、講義中に適宜紹介する。

科目名	禅学b			担当教員名	村瀬正光	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	秋	月曜日・2	2	講義	15	選択

サブタイトル	さとの歌
--------	------

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・ 仏教や禅で使われる言葉について、その内容を理解し説明することができる。
- ・ 漢文で書かれた祖録の読み方を習得し、その内容を理解し説明することができる。
- ・ 仏教や禅の思想（さとりととは何か）を理解し、その特徴を説明することができる。

【授業概要】

本講義では禅宗四部録のうち永嘉玄覺（675～713）著であろうと呼ばれる『証道歌』を取り上げる。『証道歌』に歌い上げる「南宗頓悟禅」の思想を学び、仏教や禅宗の根本思想・教義の理解と関心を深め、その内容を説明できる能力を身につけることを目的として取り組む。授業の進度は、学生の習熟度により若干の変更あり。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	はじめに 『証道歌』とは 絶学無為閑道人・・・	絶学、無為、仏性、
②	上士一決一切了・・・	多聞、精進、
③	従他謗 任他非・・・	甘露、不思議、
④	観悪言 是功德・・・	功德、善知識、怨親、
⑤	宗亦通 説亦通・・・	戒、定、慧、
⑥	獅子吼 無畏説・・・	獅子吼、
⑦	遊江海 涉山川・・・	参禅、曹溪、生死、
⑧	行亦禅 坐亦禅・・・	語、黙、動、静、忍辱、
⑨	幾回生 幾回死・・・	定止、
⑩	入深山 住蘭若・・・	蘭若、長松下、野僧、
⑪	覚即了 不施功・・・	有為、法、布施、
⑫	勢力尽 箭還墜・・・	無為、実相、如来、
⑬	但得本 莫愁末・・・	如意珠、自利、利他、
⑭	江月照 松風吹・・・	心地、
⑮	まとめ	
⑯	定期試験 回答合わせ	

【授業外学修 予習・復習など】

この授業の履修にあたり、学習成果（キーワード）の予習（読み方、意味等を調べる）を行い、授業後には講義の内容を確認して下さい。質問等は授業中、またはオフィスアワーで受け付けます。

授業計画・内容では、講義中に進捗状況を見ながら発表を行ってまいります。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は、定期試験（筆記試験 50%）、中間課題(40%)、授業への取り組み(10%)により評価を行う。なお、授業時数の5分の1以上欠席(遅刻・早退は2回で1回の欠席)すると失格。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：「禅宗四部録」の『証道歌』配布致します。
参考文献：禅の語録 16『信心銘・証道歌・十牛図・坐禅儀』筑摩書房
※その他、必要な文献については、講義中に適宜紹介する。

科目名	禅宗史 a			担当教員名	池田 丈明	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	春	火曜日・3	2	講義	15	選択

サブタイトル	一休宗純と中世後期社会
--------	-------------

【D P (ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・自ら問題を発見できる。
- ・文献解説により問題解決できる。
- ・議論の仕方を身につけることができる。

【授業概要】

禅宗史を考えていくために、室町期を生きた禅僧一休宗純に注目し、その履歴を弟子たちが年代順に編纂した『東海一休和尚年譜』を輪読します。担当者はその内容要約を行うとともに問題を提起し、報告内容について全員で議論します。

本講義は、黒田俊雄氏提唱の「顕密体制論」以降、課題として残されている中世仏教のあり方、とくに禅と顕密の関係を考察することにも、きつとつながっていくはずで

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	はじめに (講義)	一休宗純
②	『東海一休和尚年譜』 応永元年条～ (輪読)	足利義満、「公武統一政権」
③	『東海一休和尚年譜』 応永十二年条～ (輪読)	象外集鑑、清叟仁蔵主、慕喆竜攀
④	『東海一休和尚年譜』 応永十七年条～ (輪読)	謙翁宗為、西金寺、足利義持
⑤	『東海一休和尚年譜』 応永十九年条～ (輪読)	石山寺、徹翁派、無因宗因
⑥	『東海一休和尚年譜』 応永二十二年条～ (輪読)	華叟宗曇、近江堅田禅興庵
⑦	『東海一休和尚年譜』 応永二十三年条～ (輪読)	養叟宗?、上杉禅秀の乱、足利義嗣
⑧	『東海一休和尚年譜』 応永二十五年条～ (輪読)	『平家物語』、祇王、「洞山三頓棒」
⑨	『東海一休和尚年譜』 応永二十七年条～ (輪読)	印信許可、班女、世阿弥
⑩	『東海一休和尚年譜』 応永二十九年条～ (輪読)	言外宗忠、日照宗光
⑪	『東海一休和尚年譜』 応永三十年条～ (輪読)	応永の飢饉、「気候変動論」
⑫	『東海一休和尚年譜』 応永三十四年条～ (輪読)	後小松天皇、称光天皇
⑬	『東海一休和尚年譜』 正長元年条～ (輪読)	後花園天皇、足利義教、正長の土一揆
⑭	『東海一休和尚年譜』 永享四年条～ (輪読)	南江宗沅、集雲庵
⑮	まとめ (講義)	徳政
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

受講者は、必ず学習成果 (キーワード) を事前に調べたうえで、授業に臨んでください。また、議論の後に生じた疑問・質問は、オフィスアワーの時間に聞いてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験 (筆記試験 40%程度) と報告内容 (30%)、議論への参加 (30%) で成績を評価します。なお、授業時数の5分の1以上欠席すると、筆記試験の受験資格がなくなりますので注意してください。

【テキスト及び参考文献】

『東海一休和尚年譜』 (平野宗浄「一休和尚年譜の研究」(『禅文化研究所紀要』七、1975年))。同書は真珠庵蔵本 (真珠庵二十四世南山宗寿直筆写本) を底本としたものです。

科目名	禅宗史b			担当教員名	池田 丈 明	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	秋	火曜日・3	2	講義	15	選択

サブタイトル	一休宗純と中世後期社会
--------	-------------

【DP (ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・自ら問題を発見できる。
- ・文献解説により問題解決できる。
- ・議論の仕方を身につけることができる。

【授業概要】

禅宗史を考えていくために、室町期を生きた禅僧一休宗純に注目し、その履歴を弟子たちが年代順に編纂した『東海一休和尚年譜』を輪読します。担当者はその内容要約を行うとともに問題を提起し、報告内容について全員で議論します。

本講義は、黒田俊雄氏提唱の「顕密体制論」以降、課題として残されている中世仏教のあり方、とくに禅と顕密の関係を考察することにも、きつとつながっていくはずです。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	はじめに (講義)	室町期
②	『東海一休和尚年譜』永享八年条～ (輪読)	宗峰妙超、永享の乱
③	『東海一休和尚年譜』嘉吉元年条～ (輪読)	讓羽山、嘉吉の乱、赤松満祐
④	『東海一休和尚年譜』文安元年条～ (輪読)	関山慧玄、日峰宗暉
⑤	『東海一休和尚年譜』文安四年条～ (輪読)	後花園天皇、自殺
⑥	『東海一休和尚年譜』宝徳三年条～ (輪読)	蜷川新左衛門親當、徹翁義亨
⑦	『東海一休和尚年譜』享徳三年条～ (輪読)	薪村妙勝寺、南浦紹明
⑧	『東海一休和尚年譜』長禄元年条～ (輪読)	細川勝元、義天玄承
⑨	『東海一休和尚年譜』長禄三年条～ (輪読)	酬恩庵、没倫紹等
⑩	『東海一休和尚年譜』寛正元年条～ (輪読)	寛正の飢饉、足利義政
⑪	『東海一休和尚年譜』寛正二年条～ (輪読)	五山の施餓鬼、春浦宗熙
⑫	『東海一休和尚年譜』応仁元年条～ (輪読)	応仁の乱、後土御門天皇、多福庵禅竹
⑬	『東海一休和尚年譜』文明六年条～ (輪読)	足利義尚、森女、『宗鏡録』
⑭	『東海一休和尚年譜』文明十年条～ (輪読)	『狂雲集』、瘡
⑮	まとめ (講義)	「会裡の徒に示す法語」
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

受講者は、必ず学習成果 (キーワード) を事前に調べたうえで、授業に臨んでください。また、議論の後に生じた疑問・質問は、オフィスアワーの時間に聞いてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験 (筆記試験 40%程度) と報告内容 (30%)、議論への参加 (30%) で成績を評価します。なお、授業時数の5分の1以上欠席すると、筆記試験の受験資格がなくなりますので注意してください。

【テキスト及び参考文献】

『東海一休和尚年譜』(平野宗浄「一休和尚年譜の研究」(『禅文化研究所紀要』七、1975年))。同書は真珠庵蔵本(真珠庵二十四世南山宗寿直筆写本)を底本としたものです。

科目名	日本文化 a			担当教員名	鈴木重喜	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	春	金曜日・3	2	講義	15	選択

サブタイトル	元禄時代の武士の生活からみる江戸文化
--------	--------------------

【D P (ディプロマポリシー)】
 ①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。③建学の精神(行学一体)を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・ 古文を読むことができる。
- ・ 古文を解釈することができる。
- ・ 江戸時代の社会や文化についての認識や理解を深めることができる。

【授業概要】

本授業では、朝日文左衛門重章の日記『鸚鵡籠中記』を講読します。重章は、尾張藩城代組の100石取りの武士で、貞享元年(1684)から享保2年(1717)まで34年間に渡る日記筆録を残しています。この講読を通して、現代人の生活文化の起点である元禄時代を考えます。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	江戸時代の文章を読む①(講義)	数詞、干支、貨幣、度量衡
②	江戸時代の文章を読む②(講義)	助動詞、動詞、助詞など
③	尾張藩と城代組番士朝日重章(講義)	親藩、御三家、名古屋城
④	元禄4年辛未の日記(読解文作成・発表)	宰相邸にてお祝御能番組
⑤	”(読解文作成・発表)	切られ地蔵縁起
⑥	”(読解文作成・発表)	濃州たぎ村の討入事件
⑦	”(読解文作成・発表)	大森寺客殿本尊の由来
⑧	元禄5年壬申の日記(読解文作成・発表)	若宮の操芝居にて大喧嘩
⑨	”(読解文作成・発表)	津島の火事
⑩	”(読解文作成・発表)	新築の寺門を傷つく
⑪	”(読解文作成・発表)	大悟して死せし女房の話
⑫	”(読解文作成・発表)	本願寺通ヒ所にて鑄鐘
⑬	”(読解文作成・発表)	鹿島踊来る
⑭	”(読解文作成・発表)	三角関係の末心中
⑮	まとめ(講義)	
⑯	筆記試験	

【授業外学修 予習・復習など】

配布プリントの次回授業の該当箇所を自習した上で授業に臨んでください。また、授業後は、書き下し文と現代語訳文をノートに整理しまとめてください。理解ができない内容についての質問は、オフィスアワーの時間に受け付けますので、遠慮なく聞いてください。あわせて秋学期開講の「日本文化b」も履修すると、より理解がしやすくなります。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

筆記試験による成績が評価の基本であり、受講生の授業への取り組みも平常点として加味します。その割合は筆記試験70%程度、授業への取り組み10%程度、発表20%程度とします。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：プリントを配布します。受講生は、史料講読に必要な漢和辞典、国語辞典を持参してください。
 参考書：神坂次郎『元禄御登奉行の日記 尾張藩士の見た浮世』(中央公論社 1984)

科目名	日本文化b			担当教員名	鈴木重喜	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	秋	金曜日・3	2	講義	15	選択

サブタイトル 元禄時代の武士の生活からみる江戸文化

【DP(ディプロマポリシー)】
 ①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。③建学の精神(行学一体)を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・古文を読むことができる。
- ・古文を解釈することができる。
- ・江戸時代の社会や文化についての認識や理解を深めることができる。

【授業概要】
 本授業では、朝日文左衛門重章の日記『鸚鵡籠中記』を講読します。重章は、尾張藩城代組の100石取りの武士で、貞享元年(1684)から享保2年(1717)まで34年間に渡る日記筆録を残しています。この講読を通して、現代人の生活文化の起点である元禄時代を考えます。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	江戸時代の文章を読む①(講義)	数詞、干支、貨幣、度量衡
②	江戸時代の文章を読む②(講義)	助動詞、動詞、助詞など
③	尾張藩と城代組番士朝日重章(講義)	親藩、御三家、名古屋城
④	元禄5年壬申の日記(読解文作成・発表)	大雷雨中の葬儀
⑤	”(読解文作成・発表)	政秀寺の役僧喧嘩
⑥	”(読解文作成・発表)	高野山騒動
⑦	”(読解文作成・発表)	吉利支丹の疑あって死骸改め
⑧	元禄6年癸酉の日記(読解文作成・発表)	近江佐和山の火事
⑨	”(読解文作成・発表)	操り芝居附伽羅踊・大坂踊
⑩	”(読解文作成・発表)	光友公発駕一附御供之衆
⑪	”(読解文作成・発表)	伊勢詣
⑫	”(読解文作成・発表)	江戸の座頭殺犯人相書
⑬	”(読解文作成・発表)	嫁女来る次第並献立
⑭	”(読解文作成・発表)	藩侯御致仕、御嗣封
⑮	まとめ(講義)	
⑯	筆記試験	

【授業外学修 予習・復習など】
 配布プリントの次回授業の該当箇所を自習した上で授業に臨んでください。また、授業後は、書き下し文と現代語訳文をノートに整理しまとめてください。理解ができない内容についての質問は、オフィスアワーの時間に受け付けますので、遠慮なく聞いてください。あわせて春学期開講の「日本文化a」も履修すると、より理解がしやすくなります。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】
 筆記試験による成績が評価の基本であり、受講生の授業への取り組みも平常点として加味します。その割合は筆記試験70%程度、授業への取り組み10%程度、発表20%程度とします。

【テキスト及び参考文献】
 テキスト：プリントを配布します。受講生は、史料講読に必要な漢和辞典、国語辞典を持参してください。
 参考書：神坂次郎『元禄御登奉行の日記 尾張藩士の見た浮世』(中央公論社 1984)

科目名	宗教思想 a			担当教員名	宇佐美 之 規	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	春	金曜日・2	2	講義	15	選択

サブタイトル	自力聖道門と他力浄土門
--------	-------------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・自力と他力について理解し説明することができる。
- ・禅と浄土の思想について学習しその相違点と類似性を説明することができる。
- ・仏教思想の教義の多様性について理解することができる。

【授業概要】

宗教思想の中の仏教には、さまざまな教えが展開されている。その中で「禅宗」と「浄土真宗」の二つの宗派がある。この二つの宗派は、「自力」と「他力」という対照的な教えを説いているのが特徴であるが、同時に、「禅と念仏」「禅念一如」という表現もされる、本講義では、この二つの宗教思想について研究します。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	佛教について1 (講義)	宗派
②	佛教について2 (課題)	教義
③	佛教の伝来1 (講義)	神道と仏教の関係
④	佛教の伝来2 (講義)	鎮護国家、加持祈祷
⑤	佛教の伝来3 (講義)	聖徳太子
⑥	佛教の伝来4 (講義)	仏法興隆
⑦	禅の思想1 (課題)	見性
⑧	禅の思想2 (講義)	悟り
⑨	禅の思想3 (講義)	禅の種類
⑩	禅の思想4 (講義)	禅の心構え
⑪	浄土の思想1 (課題)	阿弥陀如来
⑫	浄土の思想2 (講義)	念仏
⑬	浄土の思想3 (講義)	厭離穢土・欣求浄土
⑭	浄土の思想4 (講義)	妙好人
⑮	まとめ	
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

学習成果 (キーワード) について、予め調べて授業に出席して下さい。授業後には、授業の内容について簡単にまとめて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験 70%・授業への取組み及び受講態度 20%・レポート 10%。また、授業の5分の1以上欠席すると、定期試験の受験資格がなくなりますので、注意して下さい。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：必要な資料は、担当者の方でコピーし配布します。
参考文献：文献等については、講義中に適時紹介します。

科目名	宗教思想b			担当教員名	宇佐美 之 規	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	秋	金曜日・2	2	講義	15	選択

サブタイトル	宗教の定義、仏教とキリスト教
--------	----------------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・宗教と Religion の語義について研究し理解を深め説明することが出来る。
- ・仏教とキリスト教について、その思想について理解を深めることが出来る。
- ・布教についての思想の違いについて学習し理解を深め説明することが出来る。

【授業概要】

さまざま宗教が存在するが、宗教の定義について研究し、更に、日本に伝来した宗教である仏教とキリスト教の二つに絞って、その伝来した際の影響について研究します。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	宗教とは (講義)	神道、佛教、キリスト教
②	課題作成 1 (課題)	オットー、デュルケム等
③	課題作成 2 (課題)	エリアーデ、鈴木大拙等
④	宗教の定義について (講義)	定義づけ
⑤	課題作成 3 (課題)	宗教の定義
⑥	課題作成 4 (課題)	宗教の定義
⑦	宗教と Religion 1 (グループ発表)	Religion の語義
⑧	宗教と Religion 2 (講義)	日本語における宗教の語義
⑨	佛教の伝来 1 (講義)	仏像、経論
⑩	佛教の伝来 2 (講義)	神道と仏教
⑪	佛教の伝来 3 (講義)	重層構造
⑫	キリスト教の伝来 1 (講義)	イエズス会
⑬	キリスト教の伝来 2 (講義)	イエズス会士と戦国大名
⑭	キリスト教の伝来 3 (講義)	イエズス会の伝導精神
⑮	まとめ	
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

学習成果 (キーワード) について、予め調べて授業に出席して下さい。授業後には、授業の内容について簡単にまとめて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験 70%・授業への取組み及び受講態度 20%・レポート 10%。また、授業の 5 分の 1 以上欠席すると、定期試験の受験資格がなくなりますので、注意して下さい。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：必要な資料は、担当者の方でコピーし配布します。
参考文献：文献等については、講義中に適時紹介します。

科目名	仏教福祉 a			担当教員名	今村・羽場	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	春	火曜日・2	2	講義	15	選択

サブタイトル	現代に生きる仏教社会福祉
--------	--------------

【D P (ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・現代社会における仏教福祉思想をもって実践活動を理解し実践することが出来る。
- ・現代社会における社会的実態と仏教福祉の必要性を説明し実践することが出来る。
- ・現代社会における仏教社会福祉の諸問題について考察することが出来る。
- ・現代社会において仏教福祉精神の核である慈悲のこころを育て、実際の日常生活において実践することができる。

【授業概要】

日本の仏教社会福祉は戦後の社会福祉国家への道をあゆみはじめた時期に、先達や祖先が「貧苦の淵からの呻き」に目覚め「福祉の知」へと導いた歴史が仏教的慈善から仏教社会福祉への悠久の流れをつくった（中垣）と発表されているように仏教社会福祉は過去に築かれた慈善、救済、感化、援護、援助などの概念の定義から貧乏や困窮を社会問題としてとらえる科学的視点から現実的・具体的な科学的認識によって組織化されるソーシャルワークの可能性が追求されはじめたことの講義と実践編である。

	授業計画・内容		学習成果（キーワード）
①	仏教社会福祉とは何か	4/4	仏教社会福祉の人間観・役割
②	仏教社会福祉のあゆみ	4/11	仏教社会福祉の再生と展望
③	仏教社会福祉の支援と担い手	4/18	仏教支援（相談、子育て）
④	”	4/25	介護ケア、臨終ケア、
⑤	美濃加茂市学習支援教室（短大内）	5/19	仏教支援（相談、子育て）
⑥	”	5/19	”
⑦	富加町ふれあいステージ	6/17	地域福祉（ネットワーク、共生）
⑧	”	6/17	”
⑨	富加町ふれあいステージ	6/18	”
⑩	”	6/18	”
⑪	ブラジル子供交流 七夕会	7/7	子育て支援（子育て、援助）
⑫	”	7/7	”
⑬	”	7/7	”
⑭	”	7/7	”
⑮	反省会		今後の仏教社会福祉のありかた
⑯	定期試験		

【授業外学修 予習・復習など】

予めテキストを事前に読んで、問題意識をもって授業に臨むこと。復習としては前時の学習内容事項の把握成果として、社会福祉活動に対する小レポート（コメント等）を提出する。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

毎回の課題に対する小レポート提出 20%、定期試験 60%、授業態度（発表）20%をもって評価を行う。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『仏教社会福祉入門』2014 日本仏教社会福祉学会 （株）法蔵館

科目名	仏教福祉b			担当教員名	今村・羽場	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	秋	火曜日・2	2	講義	15	選択

サブタイトル ー仏教の精神力の一つである慈悲はまさに社会福祉活動の源泉である

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・現代社会における仏教福祉思想をもって実践活動を理解し実践することが出来る。
- ・現代社会における社会的実態と仏教福祉の必要性について説明することが出来る。
- ・現代社会における仏教福祉の実践の諸問題について考察することが出来る。
- ・現代社会において仏教精神の核である慈悲の心を養成し、実際の日常生活において少しでも実践することが出来る。

【授業概要】

近年の高齢社会における社会福祉制度・施設等の外枠事業の充実化は改善されてきているが、内枠である『福祉のこころ』の教育は追いついていない。『福祉のこころ』とは、思想概念ではなく、一人ひとりが個々の心の中にある問題意識のありかたにたどりつくことが必要である。地域福祉事業は自律的に生きようとする者の援助・介護・手助けの役割を担うことから仏教精神をもって地域活動に参加することが問題解決への第一歩と考える。

	授業計画・内容		学習成果(キーワード)
①	現代に生きる仏教福祉 (講義)	9/19	人間解放、いのちの輝き、高齢者
②	美濃加茂市 学習支援教室(短大内)	9/21	子供、子育て 17時～20時(3時間)
③	〃	9/21	〃
④	美濃加茂市環境フェア(日本昭和村)	11/5	地域福祉コミュニティ(7時間)
⑤	〃	11/5	〃
⑥	〃	11/5	〃
⑦	〃	11/5	〃
⑧	富加町民まつり(富加町役場周辺)	11/18	地域福祉(いのちの輝き、共生)
⑨	〃	11/18	〃(1日5時間)
⑩	〃	11/18	〃
⑪	富加町町民まつり	11/19	〃(1日5時間)
⑫	〃	11/19	〃
⑬	ブラジル子供交流クリスマス会	12/22	仏教支援、子育て、相談、交流
⑭	〃(短大内)	12/22	〃13時半～19時
⑮	〃	12/22	〃(5,5時間)
⑯	期末試験		

【授業外学修 予習・復習など】

予めテキストを事前に読んで、問題意識をもって授業に臨むこと。復習としては前時の学習内容事項の把握成果として、毎回、課題に対する小レポート(コメント等)を提出する。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

毎回の課題に対する小レポート提出20%、定期試験60%、授業態度(発表)20%をもって評価を行う。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『仏教社会福祉入門』2014 日本仏教社会福祉学会 (株)法蔵館

科目名	禅宗経典 a			担当教員名	水野和彦	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	春	月曜日・3	2	講義	15	選択

サブタイトル	日課経典の解説
--------	---------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・禅宗の経典の内容を理解し説明することができる。
- ・仏教と禅の思想の差異を理解し、その特徴を説明することができる。
- ・禅仏教の思想が、現代人の諸問題解決にどう役立つか考察することができる。

【授業概要】

本授業では、『勤行聖典』を中心に臨済宗門で読誦する経典について学習する。授業では経典の現代語訳を提示し、その内容を説明する力を身につけ、禅仏教の思想について深く考察できることを目的とする。授業の進度は学生の習熟度によって若干変更あり。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	ガイダンス 仏教と禅宗の経典	三蔵、経律論
②	七佛通戒偈・夜叉説半偈	諸悪莫作、諸行無常
③	懺悔文・開経偈・剃髮偈	懺悔、得度
④	三帰戒・四弘誓願	戒律、三帰依、三宝、誓願
⑤	般若心経Ⅰ (講義)	般若経、大乘仏教、六波羅蜜
⑥	般若心経Ⅱ (講義)	五蘊、十二処、十八界、空
⑦	般若心経Ⅲ (発表、討論)	四諦、涅槃、菩提、菩薩、顛倒
⑧	般若心経Ⅳ (発表、討論)	中観思想、般若経
⑨	禅宗の陀羅尼Ⅰ 大悲咒	陀羅尼、大悲咒、観音
⑩	禅宗の陀羅尼Ⅱ 仏頂尊勝陀羅尼と消災咒	仏頂尊勝陀羅尼、消災咒
⑪	禅宗の陀羅尼Ⅲ 楞嚴咒	楞嚴咒
⑫	開甘露門Ⅰ (講義)	施餓鬼の因縁
⑬	開甘露門Ⅱ (発表、討論)	先祖供養
⑭	観音経と延命十句観音経Ⅰ (講義)	法華経
⑮	観音経と延命十句観音経Ⅱ (発表、討論)	観音信仰
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

毎回授業前に、学習成果 (キーワード) の予習 (読み方、意味などを調べる) を行うこと。また経典の内容によって、布教を目的とした法話形式の発表を課する。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験 (筆記試験)、授業への取組、レポート等で総合的に評価する。なお授業時数の5分の1以上欠席 (遅刻・早退は2回で1回の欠席) すると試験受験資格を失格する。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『勤行聖典』

参考文献：『仏教学辞典』『仏教辞典』『禅学辞典』『禅語辞典』等、多くの辞書類から用語を調べる習慣をつけることが望ましい。その他必要な文献については、講義中に適宜紹介する。

科目名	禅宗経典b			担当教員名	水野和彦	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	秋	月曜日・3	2	講義	15	選択

サブタイトル	日課経典の解説
--------	---------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・禅宗の経典の内容を理解し説明することができる。
- ・仏教と禅の思想の差異を理解し、その特徴を説明することができる。
- ・禅仏教の思想が、現代人の諸問題解決にどう役立つか考察することができる。

【授業概要】

本授業では、『勤行聖典』を中心に臨済宗門で読誦する経典について学習する。授業では経典の現代語訳を提示し、その内容を説明する力を身につけ、禅仏教の思想について深く考察できることを目的とする。授業の進度は学生の習熟度によって若干変更あり。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	ガイダンス 白隠禅師坐禅和讃Ⅰ (講義)	和讃、遺誡、回向
②	白隠禅師坐禅和讃Ⅱ (発表、討論)	白隠禅師、仏性、坐禅、禅定
③	白隠禅師坐禅和讃Ⅲ (発表、討論)	無相、無念、四智
④	菩提和讃Ⅰ (講義)	菩提、一切唯心造、三毒五欲
⑤	菩提和讃Ⅱ (発表、討論)	十善、慚愧、種子、称名念仏
⑥	菩提和讃Ⅲ (発表、討論)	般若の船、涅槃の岸
⑦	興禅大燈国師遺誡Ⅰ (講義)	宗峰妙超、大徳寺、応灯関
⑧	興禅大燈国師遺誡Ⅱ (発表、討論)	報恩底、己事究明
⑨	無相大師遺誡Ⅰ (講義)	関山慧玄、妙心寺、五山、林下
⑩	無相大師遺誡Ⅱ (発表、討論)	楊岐、宋代禅、虚堂、古尊宿
⑪	坐禅儀Ⅰ (講義)	四部録、禅苑清規
⑫	坐禅儀Ⅱ (発表、討論)	安楽の法門、魔事、止観
⑬	回向Ⅰ 日課諷経より	小叢林略清規、諸回向清規
⑭	回向Ⅱ 月例諷経より	祝聖、六諷経
⑮	回向Ⅲ 年中行事の法要より	修正会、開山忌、施餓鬼
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

毎回授業前に、学習成果 (キーワード) の予習 (読み方、意味などを調べる) を行うこと。また経典の内容によって、布教を目的とした法話形式の発表を課する。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験 (筆記試験)、授業への取組、レポート等で総合的に評価する。なお授業時数の5分の1以上欠席 (遅刻・早退は2回で1回の欠席) すると試験受験資格を失格する。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『勤行聖典』

参考文献：『仏教学辞典』『仏教辞典』『禅学辞典』『禅語辞典』等、多くの辞書類から用語を調べる習慣をつけることが望ましい。その他必要な文献については、講義中に適宜紹介する。

科目名	禅宗法儀 a			担当教員名	池田 丈明	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	春	金曜日・1	2	講義	15	選択

サブタイトル	禅宗仏事法会の基本
--------	-----------

【D P (ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・禅宗の基本作法を身につけることができる。
- ・禅宗仏事法会に内在する思想を理解できる。
- ・専門道場の殿司（仏殿のことをつかさどる役職）も視野にいたれた基本を修得できる。

【授業概要】

禅宗法儀を考えていくために、禅宗仏事法会を修するうえで基本的かつ必要な作法を解説します。さらに各授業の後半では、実習形式もとり入れ、受講者全員が型を身につけるために実物に触れて学びます。また、受講者は型を修得するために授業後の復習（反復練習）を十分に行うことを課題とします。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	はじめに（講義）	『江湖法式梵唄抄』
②	専門道場の日課・月例行事一（講義・実習）	朝課、晚課
③	専門道場の日課・月例行事二（講義・実習）	祝聖、六諷経
④	専門道場の日課・月例行事三（講義・実習）	堂内諷経、常住諷経
⑤	専門道場の年中行事一（講義・実習）	二祖三仏忌
⑥	専門道場の年中行事二（講義・実習）	善月（正月・五月・九月）
⑦	専門道場の年中行事三（講義・実習）	盂蘭盆会
⑧	専門道場の基本作法一（講義・実習）	叉手と合掌、目線
⑨	専門道場の基本作法二（講義・実習）	左進右退、右茶左菓
⑩	専門道場の基本作法三（講義・実習）	叉手出班合掌帰班、
⑪	専門道場の基本作法四（講義・実習）	上肩順転下肩逆転、闕を越す
⑫	施餓鬼の呪と鳴らしもの（講義・実習）	引磬、鼓、鐺鉞
⑬	施餓鬼の回向（講義・実習）	「山門施餓鬼会回向」
⑭	施餓鬼幢幡の社会的意味とその作成（講義・実習）	施餓鬼幢幡
⑮	まとめ（講義）	
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

受講者は、必ず学習成果（キーワード）を事前に調べたうえで、授業に臨んでください。また、予習・復習の際に生じた疑問・質問は、オフィスアワーの時間に聞いてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験（筆記試験 50%程度）と授業への取り組み（50%）で成績を評価します。
なお、授業時数の5分の1以上欠席すると、筆記試験の受験資格がなくなりますので注意してください。

【テキスト及び参考文献】

『臨済宗妙心寺派 勤行聖典』（臨済宗妙心寺派宗務本所、税込み 1,000 円）。
加藤隆芳、水野泰嶺、森弘宗監修『江湖法式梵唄抄』（禅文化研究所、1990年）。
『小叢林略清規』（『大正新脩大藏經』第八十一卷所収）。

科目名	禅宗法儀b			担当教員名	池田 丈明	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	春	金曜日・1	2	講義	15	選択

サブタイトル	禅宗仏事法会の基本
--------	-----------

【D P (ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・禅宗の基本作法を身につけることができる。
- ・禅宗仏事法会に内在する思想を理解できる。
- ・専門道場の殿司（仏殿のことをつかさどる役職）も視野にいたした基本を修得できる。

【授業概要】

禅宗法儀を考えていくために、禅宗仏事法会を修するうえで基本的かつ必要な作法を解説します。さらに各授業の後半では、実習形式もとりいれ、受講者全員が型を身につけるために実物に触れて学びます。また、受講者は型を修得するために授業後の復習（反復練習）を十分に行うことを課題とします。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	はじめに（講義）	『江湖法式梵唄抄』
②	回向ならびに疏一（講義・実習）	回向、疏、略三宝
③	回向ならびに疏二（講義・実習）	「本尊回向」
④	回向ならびに疏三（講義・実習）	「亡者忌回向」
⑤	回向ならびに疏四（講義・実習）	嘆仏、嘆真、嘆靈
⑥	回向文の製作（講義・実習）	封、大奉書、大杉
⑦	鳴らし物の基本一（講義・実習）	七・五・三（四・二・三）、連声
⑧	鳴らし物の基本二（講義・実習）	鐘・鼓・磬・槌・鈴
⑨	鳴らし物の基本三（講義・実習）	魚鱗・魚鼓
⑩	鳴らし物の基本四（講義・実習）	法鼓、禾山無股
⑪	『大般若波羅蜜多經』六百卷（講義・実習）	修正会、修正滿散会
⑫	『大般若波羅蜜多經』の転読法（講義・実習）	真読と転読、降伏一切大魔最勝成就
⑬	大般若の回向（講義・実習）	「善月祈祷回向」
⑭	大般若札の製作（講義・実習）	大般若札
⑮	まとめ（講義）	
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

受講者は、必ず学習成果（キーワード）を事前に調べたうえで、授業に臨んでください。また、予習・復習の際に生じた疑問・質問は、オフィスアワーの時間に聞いてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験（筆記試験50%程度）と授業への取り組み（50%）で成績を評価します。
なお、授業時数の5分の1以上欠席すると、筆記試験の受験資格がなくなりますので注意してください。

【テキスト及び参考文献】

『臨済宗妙心寺派 勤行聖典』（臨済宗妙心寺派宗務本所、税込み1,000円）。
加藤隆芳、水野泰嶺、森弘宗監修『江湖法式梵唄抄』（禅文化研究所、1990年）。
『小叢林略清規』（『大正新脩大藏經』第八十一卷所収）。

科目名	日本事情 a			担当教員名	鈴木重喜	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	月曜日・1	2	講義	15	留学生選択必修

サブタイトル	日本文化を歴史から学ぶ
--------	-------------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・日本文化についてその意味を理解し、日本の言葉で表現できる。
- ・日本文化についてその意味を理解し、日本語の文章で表現できる。
- ・日本文化についての認識や理解を深めることができる。

【授業概要】

日本人は長い歴史の中で文化を形成し、現在まで伝えてきています。この授業では、日本の文化史を取り上げた書物を講読し、日本語の学習を兼ねます。毎回の授業のはじめに、学習する内容の説明を行った上で書物を読みます。また、日本文化に関する発表もさせていただきます。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	オリエンテーション (講義)	一所懸命、主従制、騎射三物
②	武士の台頭 (講義・講読)	大鎧、腹巻、胴丸、具足
③	武具の変化 (講義・講読)	座、二毛作、灌漑排水施設
④	職人と農民の生活 (講義・講読)	法然、親鸞、栄西、道元、日蓮
⑤	鎌倉新興仏教と旧仏教 (講義・講読) *レポート提出	天竺様、唐様、和様
⑥	鎌倉時代の寺院建築 (講義・講読) *発表	明兆、如拙、周文、雪舟
⑦	水墨画の流行 (講義・講読)	足利義満、足利義政、廻遊式庭園
⑧	金閣寺と銀閣寺 (講義・講読)	北条実時、金澤文庫
⑨	武家の学問 (講義・講読)	平家物語、方丈記、徒然草
⑩	鎌倉時代の文学 (講義・講読) *レポート提出	二条良基、飯尾宗祇、山崎宗鑑
⑪	庶民文学としての連歌 (講義・講読) *発表	観阿弥・世阿弥
⑫	能楽の大成 (講義・講読)	村田珠光、武野紹鷗、千利休
⑬	喫茶の風習と茶道の発生 (講義・講読)	加藤四郎左衛門景正、李参平
⑭	各地で始まった陶器の生産 (講義・講読)	
⑮	まとめ (講義)	
⑯	筆記試験	

【授業外学修 予習・復習など】

配布プリントの次回授業の該当箇所を自習した上で、授業に臨んでください。また、授業後は、授業の内容を文章化して簡潔にまとめてください。理解できない内容についての質問は、オフィスアワーの時間に受け付けますので、遠慮なく聞いてください。あわせて秋学期開講の「日本事情b」も履修すると、より理解がしやすくなります。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験 (筆記試験 70%程度) と授業への取り組み (10%程度)、レポート・発表 (20%程度) とします。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：プリントを配布します。解釈に必要な中日辞典、英和辞典等を持参してください。
参考文献：日本語学習の進度により適宜紹介します。

科目名	日本事情 b			担当教員名	鈴木重喜	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	秋	月曜日・1	2	講義	15	留学生選択必修

サブタイトル	日本文化を歴史から学ぶ
--------	-------------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・日本文化についてその意味を理解し、日本の言葉で表現できる。
- ・日本文化についてその意味を理解し、日本語の文章で表現できる。
- ・日本文化についての認識や理解を深めることができる。

【授業概要】

日本人は長い歴史の中で文化を形成し、現在まで伝えてきています。この授業では、日本の文化史を取り上げた書物を講読し、日本語の学習を兼ねます。毎回の授業のはじめに、学習する内容の説明を行った上で書物を読みます。また、日本文化に関する発表もしていただきます。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	オリエンテーション (講義)	
②	家系図の創作 (講義・講読)	源平藤橘
③	徐々に豊かになった江戸時代の食事 (講義・講読)	初物、鮓屋、そば屋、しるこ屋
④	防災都市として発展した江戸の街 (講義・講読)	大名火消し、定火消し、町火消し
⑤	信仰の旅 (講義・講読) *レポート提出	伊勢参り、弘法大師巡礼
⑥	浮世絵の流行 (講義・講読) *発表	菱川師宣、喜多川歌麿、葛飾北斎
⑦	歌舞伎の流行 (講義・講読)	市川團十郎、坂田藤十郎
⑧	浮世草子と俳諧 (講義・講読)	井原西鶴、松永貞徳、松尾芭蕉
⑨	川柳、狂歌の発生と俳諧、和歌の発展 (講義・講読)	柄井川柳、大田南畝、小林一茶
⑩	儒学の広まりと分化 (講義・講読) *レポート提出	林羅山、山崎闇斎、中江藤樹
⑪	国学の発生 (講義・講読) *発表	賀茂真淵、本居宣長、平田篤胤
⑫	暦法と和算の発達 (講義・講読)	安井算哲、関孝和
⑬	様々な分野の学問に影響を与えた洋学 (講義・講読)	西川如見、前野良沢、杉田玄白
⑭	藩校と寺子屋 (講義・講読)	大名、庶民、私塾
⑮	まとめ (講義)	
⑯	筆記試験	

【授業外学修 予習・復習など】

配布プリントの次回授業の該当箇所を自習した上で、授業に臨んでください。また、授業後は、授業の内容を文章化して簡潔にまとめてください。理解できない内容についての質問は、オフィスアワーの時間に受け付けますので、遠慮なく聞いてください。あわせて春学期開講の「日本事情 a」も履修すると、より理解がしやすくなります。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験 (筆記試験 70%程度) と授業への取り組み (10%程度)、レポート・発表 (20%程度) とします。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：プリントを配布します。解釈に必要な中日辞典、英和辞典等を持参してください。
参考文献：日本語学習の進度により適宜紹介します。

科目名	太極拳			担当教員名	水谷和郎	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	秋	火曜日・1	1	実習	15	選択

サブタイトル 武術を通してしなやかな心と体をつくる。

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅についての専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との総合理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・身体感覚を養うことによって、意識・呼吸・動作の結合を体感することができる。
- ・中国の伝統思想を学び、禅の精神が武術の中にも生きていることを理解し説明することができる。
- ・無理のない力の使い方や意識の持ち方を身に付け、日常生活にも応用できる。

【授業概要】

太極拳は本来は中国伝統の武術ですが、攻防の技術ばかりではなく養生的な面や「動く禅」とも言うべき高い精神性をも兼ね備えています。本講座では太極拳の実習（「套路＝とうろ」）を通して自己の心身への認識を深めると共に、「推手」という攻防の基礎訓練の中から相手の心身の状況を察知する感覚を養います。また太極拳成立の文化的背景である中国古来の宗教・思想の一端や禅と武術との関わりも学んでいきます。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	太極拳の歴史、基本原理。（講義、実習）	太極、心静体鬆
②	入門套路。（実習）	立身中正、用意不用力
③	入門套路。（実習）	沈肩墜肘、鬆腰
④	入門套路。（実習）	虚靈頂勁、含胸拔背
⑤	入門套路。（実習）	上下相随、虚实分明
⑥	入門套路。（実習）	相連不断
⑦	入門套路。（実習）	内外相合、動中求静
⑧	入門套路。道教と太極拳（実習、講義）	老子、上善若水
⑨	入門套路。儒教と太極拳（実習、講義）	無極而太極、主静
⑩	入門套路。禅と太極拳。（実習、講義）	虚靈不昧
⑪	入門套路。推手。（実習、相互点検）	不去不頂（ふちゅうふちょう）
⑫	入門套路。推手。（実習、相互点検）	無過不及、不偏不倚
⑬	入門套路。推手。（実習、相互点検）	一動全動
⑭	入門套路。推手。（実習、相互点検）	完整一气、滔々不絶
⑮	入門套路。推手。（実習、相互点検）	捨己従人
⑯	筆記試験	

【授業外学修 予習・復習など】

事前に『太極拳術十要』（プリント）を熟読して、受講の際に必要な用語の意味を理解しておいてください。またそれを参考にして動作を復習するとともに、動作原理を日常生活にも応用してみてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

- ・授業への取り組み（60％程度）と筆記試験（小論文、40％程度）で判定します。
- ・運動量は体力に応じて各自調節できます。外形よりも体感を重視しますので真摯な取り組みをお願いします。
- ・授業時数の5分の1以上欠席すると、筆記試験の受験資格がなくなりますので、注意してください。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：プリントを配布します。

参考文献：水谷『太極拳と禅—「静」の追求』（『正眼短期大学 研究紀要』第7号 所収）

科目名		ヨガ		担当教員名		酒向 秀子	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	春	火曜日・1	1	実習	15	選択	

サブタイトル	健康度を高め、心の平安さを育む
--------	-----------------

【D P (ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。③建学の精神（行学一体）を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性をもち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・人間の構造論である「人間馬車説」「人間五蔵説」を理解し説明する事が出来る。
- ・瞑想により内部心理機関である理智鞘において自己の認知の変容が説明できる。
- ・心身の健康度を高め、現代社会におけるストレスに左右されない精神力と自己制御力を付ける事が出来る。

【授業概要】

ヨガは古来インドから今日まで伝承され続けている体系化された精神修行の道です。アーサナ（体位法）は動禅とも言われ、プラナーヤマ（調気法）、瞑想等の実践は心身に深く影響を与え、人の存在を肉体的、感覚的、情動的、知的、霊的という総合的に成長させ本来の自分を取り戻します。ストレス社会において自己制御力を向上させます。実技を行い心身の変化を発表します。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	ヨガの歴史・真の健康とは・	WHOの定義・全人的
②	ヨガ実習（アサナ・呼吸法）	ヨーガ・ストラ・ヨガ八支則
③	”（アサナ・呼吸法）	カマ・ウパニシャト・人間馬車説
④	”（アサナ・呼吸法）	タイッティリヤ・ウパニシャト・人間五蔵説
⑤	”（アサナ・呼吸法・瞑想）	社会的自己制御
⑥	”（アサナ・呼吸法・瞑想）	肉体的・感覚的自己制御
⑦	”（アサナ・呼吸法・瞑想）	アヌロマ・ウパニシャト呼吸法・心観瞑想
⑧	ヨガ療法ワークショップ	不安感への制御法
⑨	ヨガ実習（太陽の礼拝A・呼吸法・瞑想）	チャントラバダナ呼吸法・ウエダ瞑想
⑩	”（太陽の礼拝A・呼吸法・瞑想）	ナティ・シュティ呼吸法 ”
⑪	ビデオ視聴	ヨガ療法 DVD
⑫	ヨガ実習（太陽の礼拝B・呼吸法・瞑想）	カハラティ・クイク・リラクゼーション
⑬	”（太陽の礼拝B・呼吸法・瞑想）	ブラマリー呼吸法・ウエダ瞑想
⑭	”（太陽の礼拝B・呼吸法・瞑想）	ディープ・リラクゼーション・ウエダ瞑想
⑮	まとめ	
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

授業後は講義、実技の内容をまとめて下さい。また、授業で行ったヨガを毎日実践して下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

授業への取り組み（60％）筆記試験（40％）で判定をします。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：木村慧心 著 「実践 ヨーガ療法」（ガイヤブック 2,400円+消費税）
：プリント配布

科目名	茶道 a			担当教員名	辻 栄 治	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	金曜日・1	1	実習	15	選択

サブタイトル 茶道から学ぶ日本の伝統文化とおもてなしの心

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を理解し、表現することで、他者との相互理解に努め組織の中で創造的に活動していくことができる。③建学の精神（行学一体）を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・薄茶点前ができ美味しくお茶を点てる事ができる。
- ・茶会に招かれても恥ずかしくなく客ができる。
- ・茶道のおもてなしの心が理解出来る。

【授業概要】

日本の伝統文化である茶道を、割稽古（帛紗捌き、棗の清め方、茶巾のたたみ方等、点前に先だつて行う稽古）盆略点前、薄茶点前を習得し、お客としての基本的な心構えを学びます。掛け軸の書、茶碗などの焼き物、総合芸術である茶道を理解出来るようにします。稽古を通じて茶道の思いやりの心を養い、礼儀正しさと豊かな心を身につけます。季節にあった点前を稽古し、茶道の素晴らしさを実感できるようにします。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	茶道を学ぶにあたって基礎的な知識（講義）	歴史、立ち居振る舞い
②	割稽古（講義・実習）	帛紗捌き、棗・茶杓の清め方
③	割稽古（講義・実習）	お茶のいただき方
④	盆略点前（講義・実習）	お盆を使ってお茶を点てる
⑤	盆略点前（講義・実習）	お盆を使ってお茶を点てる
⑥	盆略点前（講義・実習）	お盆を使ってお茶を点てる
⑦	薄茶点前（講義・実習）	風炉にて薄茶を点てる
⑧	薄茶点前（講義・実習）	風炉にて薄茶を点てる
⑨	薄茶点前（講義・実習）	風炉にて薄茶を点てる
⑩	棚にて薄茶点前（講義・実習）	風炉棚を使い薄茶を点てる
⑪	棚にて薄茶点前（講義・実習）	風炉棚を使い薄茶を点てる
⑫	葉蓋にて薄茶点前（講義・実習）	特殊点前の意味を理解する
⑬	葉蓋にて薄茶点前（講義・実習）	特殊点前の意味を理解する
⑭	洗い茶巾にて薄茶点前（講義・実習）	特殊点前の意味を理解する
⑮	洗い茶巾にて薄茶点前、実技試験（講義、実習）	特殊点前の意味を理解する
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

点前は稽古を何度も何度も繰り返して行う事により身に付くものです。予習・復習を必ずしておいて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

実技試験 30%、レポート（400字程度、茶道を学んで感じた事）30%、筆記試験 20%、授業態度 20%。なお 5分の1以上欠席すると筆記試験の受験資格がなくなるので注意。

男女共着物着用（男子袴着用）、男女共白足袋着用、帛紗、茶道用扇子

【テキスト及び参考文献】

テキスト：学校茶道裏千家より発行「学校茶道初級編」750円

参考文献：

科目名		茶道b		担当教員名	辻 栄 治	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	秋	金曜日・1	1	実習	15	選択

サブタイトル 茶道から学ぶ日本の伝統文化とおもてなしの心

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を理解し、表現することで、他者との相互理解に努め組織の中で創造的に活動していくことができる。③建学の精神（行学一体）を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・薄茶点前が出来美味しくお茶を点てる事ができる。
- ・茶会に招かれても恥ずかしくなく客ができる。
- ・茶道のおもてなしの心が理解できる。

【授業概要】

明治以降洋風文化が入り、腰掛けてお茶を点てる点前ができました。その立礼の点前を稽古します。5月から稽古してきた風炉のお点前が、11月から炉の点前に変わります。季節を大事にする茶道の思いやりの心を実践で学びます。点前だけでなく、掛け軸の前後などの意味も勉強します。また、掛け軸、茶碗など箱の紐の結び方も学びます。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	茶道学にあたって基礎的な知識（講義・実習）	歴史、立ち居振る舞い
②	棚にて薄茶点前（実習）	平棗の扱いを理解する
③	立礼にて薄茶点前（御園棚使用）（実習）	御園棚にてお茶を点てる
④	立礼にて薄茶点前（御園棚使用）（実習）	御園棚にてお茶を点てる
⑤	立礼にて薄茶点前（御園棚使用）（実習）	御園棚にてお茶を点てる
⑥	炉にて薄茶点前（実習）	炉にて薄茶点前を習得する
⑦	炉にて薄茶点前（実習）	炉にて薄茶点前を習得する
⑧	炉にて薄茶点前（実習）	炉にて薄茶点前を習得する
⑨	炉棚にて薄茶点前（実習）	棚を使用した点前を取得する
⑩	炉棚にて薄茶点前（実習）	棚を使用した点前を習得する
⑪	炉棚にて薄茶点前（絞り茶巾）（実習）	絞り茶巾の意味を理解する
⑫	炉棚にて薄茶点前（絞り茶巾）（実習）	絞り茶巾の意味を理解する
⑬	炉棚にて薄茶点前（絞り茶巾）（実習）	絞り茶巾の意味を理解する
⑭	炉流し立て（実習）	流し立ての意味を理解する
⑮	炉流し立て（実技試験）（実習）	流し立ての意味を理解する
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

点前は稽古を何度も何度も繰り返して行う事により身に付くものです。予習、復習は必ずしてきて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

実技試験 30%、レポート（400字程度、茶道を学んで感じた事）30%、授業態度 20%、筆記試験 20%。なお5分の1以上欠席すると筆記試験の受験資格がなくなるので注意。

男女共着物着用（男子は袴着用）男女とも白足袋着用、帛紗、茶道用扇子

【テキスト及び参考文献】

テキスト：学校茶道裏千家より発行「学校茶道初級編」850円

参考文献：

科目名		華道 a		担当教員名	辻 栄 治	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	金曜日・2	1	実習	15	選択

サブタイトル	花を知り、花を生かし美しくいける
--------	------------------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的な知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・生け花の基本技術が習得できる
- ・生け花が理解できる。
- ・花を生かし美しくいける技術が身につく。

【授業概要】

人は皆花の色の美しさを愛で、その香しい匂いに酔う。古今東西においても同じである。その中で日本では特に花をいけることを中心にして、華道が成立した。自然にあるがままに咲く花を切り、その習性特徴を活かし花をいけるという伝統文化を習得します。床の間・玄関・下駄箱の上など置く場所、また花を入れる器によって違う、格式花、自由花、投入花を実習します。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	生け花の歴史、松月堂古流の生け花 (講義)	生け花の歴史を知る
②	生け花の考え方 生花の実習 (講義・実習)	生花を理解する
③	生花の分体について (講義・実習)	生花を理解する
④	五行の花の考え方 (講義・実習)	生花を理解する
⑤	生け花の基礎知識 (講義・実習)	生け花を理解する
⑥	盛花の基本花型について (講義・実習)	盛花を理解する
⑦	盛花の基本花型について (講義・実習)	盛花を理解する
⑧	盛花の応用花型について (講義・実習)	自然調盛花を理解する
⑨	自然調盛花について (講義・実習)	自然調盛花を理解する
⑩	自然調盛花について (実習)	自然調盛花を理解する
⑪	造形調盛花について (講義・実習)	造形調盛花を理解する
⑫	造形調盛花について (実習)	造形調盛花を理解する
⑬	投入花基本花型について (講義・実習)	投入花を理解する
⑭	投入花基本花型について (実習)	投入花を理解する
⑮	生け花まとめ (講義・実習)	半期を振り返る
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

限られた時間内での講義です。毎回材料や生け方が変わるので、復習は必ずして下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

筆記試験 30%、レポート (400字程度、テーマ：華道を学んで感じた事) 30%、実技試験 20%、授業態度 20%。

授業5分の1以上欠席すると筆記試験の受験資格を失うので注意。

【テキスト及び参考文献】

- ・プリントを配布

科目名		華道b		担当教員名		辻 栄 治	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	秋	金曜日・2	1	実習	15	選択	

サブタイトル	花を知り、花を生かし美しくいける
--------	------------------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的な知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・生け花の基本技術が習得できる
- ・生け花が理解できる。
- ・花を生かし美しくいける技術が身につく。

【授業概要】

人は皆、花の色の美しさを愛で、その香しい匂いに酔う。古今東西においても同じである。その中で日本では特に花をいけることを中心にして、華道が成立した。自然にあるがままに咲く花を切り、その習性特徴をいかし花をいけるという伝統文化を習得します。床の間・玄関・下駄箱の上など置く場所、また花を入れる器によって違う、格式花、自由花、投入花を実習します。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	生け花の歴史、松月堂古流の生け花 (講義)	生け花の歴史を知る
②	生け花の考え方 生花の実習 (講義・実習)	生花を理解する
③	生花の分体について (講義・実習)	生花を理解する
④	五行の花の考え方 (講義・実習)	生花を理解する
⑤	生け花の基礎技術 (講義・実習)	生け花を理解する
⑥	盛花の基本花型について (講義・実習)	盛花を理解する
⑦	盛花の基本花型について (実習)	盛花を理解する
⑧	盛花応用花型について (講義・実習)	盛花を理解する
⑨	自然調盛花について (講義・実習)	自然調盛花を理解する
⑩	自然調盛花について (実習)	自然調盛花を理解する
⑪	造形調盛花について (講義・実習)	造形調盛花を理解する
⑫	造形調盛花について (実習)	造形調盛花を理解する
⑬	投入花基本花型について (講義・実習)	投入花を理解する
⑭	投入花基本花型について (実習)	投げ入れ花を理解する
⑮	生け花まとめ (講義・実習)	半期を振り返る
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

限られた時間内での講習です、毎回材料や生け方が変わるので、復習は必ずして下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

筆記試験 30%、レポート (400字程度、テーマ華道を学んで感じた事) 30%、実技試験 20%、授業態度 20%。
授業5分の1以上欠席すると筆記試験の受験資格を失うので注意。

【テキスト及び参考文献】

- ・プリントを配布

科目名	筆禅道 a			担当教員名	加藤舞心	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	土曜日(隔週) 1・2	1	実習	15	選択

サブタイトル	筆をもって禅を行じる
--------	------------

【D P (ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・文房四宝（筆・墨・硯・紙）の使い方が習得できる。
- ・呼吸・姿勢・執筆法を身に着けることができる。
- ・手習い(技術)と目習い(鑑賞眼)を養うことができる。

【授業概要】

書は東洋におけるもっとも美しい芸術の一つです。それは東アジアの漢字文化圏において発達し、日本においては平安時代の仮名の美に象徴されます。

漢字の変遷をたどりながら、古典と呼ばれる中国・日本の名跡を臨書しその美しさに迫ります。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	書について	文房四宝
②	筆禅道とは	呼吸・姿勢・執筆
③	篆書の美	甲骨文字・金文・石鼓文
④	〃	形と質・点と線
⑤	隸書の美	木簡・竹簡・帛書
⑥	〃	乙瑛碑・鄧石如
⑦	楷書の美	永字八法・活字
⑧	〃	唐の四大家・幕末の三舟
⑨	行書の美	王羲之・蘭亭序
⑩	〃	宋の四大家
⑪	草書の美	千字文
⑫	〃	書譜(書論)
⑬	仮名の美	いろは
⑭	〃	蓬萊切
⑮	篆刻	金印・落款印
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

美しいものに積極的にふれてください。書くという行為を意識して生活をしてください。授業の疑問はその場でしてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は授業中の習作作品とレポート及び試験等により総合的にみます。授業時数の5分の1以上欠席すると、試験の受験資格がなくなります。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：必要資料は担当者の方で準備します。紙代・教材費として2,000円徴収します。

参考文献：「書は人なり 墨蹟の観方と学び方」寺山且中著 淡交社 1,680円

科目名	筆禅道b			担当教員名	加藤舞心	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	秋	土曜日(隔週) 1・2	1	実習	15	選択

サブタイトル	筆をもって禅を行じる
--------	------------

【D P (ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる

【到達目標】

- ・文房四宝（筆・墨・硯・紙）の使い方が習得できる。
- ・呼吸・姿勢・執筆法を身に着けることができる。
- ・手習い(技術)と目習い(鑑賞眼)を養うことができる。

【授業概要】

書之美しさは用美一体の美しさであり日常生活を離れません。しかし、現代は文字を書くという行為が少なくなってきました。文字を書くという行為がどのようにして芸術までに高められてきたか墨蹟を通してみていきます。作品を作り発表することにより、創作の楽しさ、むずかしさ、人との違いを感じ、書は人なりを学んでいきます。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	書と書論	高村光太郎・会津八一
②	漢字仮名交じり書	片仮名・平仮名
③	伝教大師の書	最澄・久隔帖
④	弘法大師の書	空海・風信帖
⑤	大燈国師の書	看經真詮榜・関山
⑥	一休宗純の書	一本棒・金棒
⑦	白隠慧鶴の書	円相と達磨
⑧	大愚良寛の書	漢字と仮名
⑨	作品制作	撰文(墨場必携)
⑩	"	検字(五体字類)
⑪	"	草稿
⑫	"	清書
⑬	"	落款
⑭	"	鑑賞
⑮	筆禅道	書初め
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

美しいものに積極的にふれてください。書くという行為を意識して生活をしてください。授業の疑問はその場でしてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は授業中の習作作品とレポート及び試験等により総合的にみます。授業時数の5分の1以上欠席すると、試験の受験資格がなくなります。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：必要資料は担当者の方で準備します。紙代・教材費として2,000円徴収します。

参考文献：「書は人なり 墨蹟の観方と学び方」寺山且中著 淡交社 1,680円

科目名	陶芸 a			担当教員名	松原 一 哲	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	金曜日（隔週） 3・4	1	実習	15	選択

サブタイトル	うつわの心
--------	-------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を理解し、表現することで、他者との相互理解に努め組織の中で創造的に活動していくことができる。③建学の精神（行学一体）を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・ひたすら陶芸のもつ芸術的なおもしろさに触れる事により、探究することが出来る。
- ・一作一作独自の輝きをもつ、うつわ制作をすることで技を習得が出来る。
- ・プロセスを想像しながら鑑賞でき、焼き物への親しみ、共感がいっそう増すことが出来る。

【授業概要】

器にふれ、口をつけ、見つめる。器は人間のあらゆる感覚の近くで生々と響く言葉を持っています。そして折々に器に語りかける。その言葉をいかに受け止め得るか、そこから個人各様の器に対するこだわりが生まれてくるのでしょうか。ここでは、器への深いまなざしをお持ちの生徒諸君にお話を伺い作陶には励もうと思います。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	制作工程の説明（講義）	陶器・磁器
②	轆轤をひく（実習）	煎茶湯呑 芯出し
③	”（実習）	”
④	”（実習）	”
⑤	”（実習）	筒湯呑
⑥	”（実習）	”
⑦	”（実習）	”
⑧	”（実習）	”
⑨	”（実習）	酒器
⑩	”（実習）	”
⑪	” 素焼（実習）	茶碗 750度焼成
⑫	”（実習）	”
⑬	” 本焼 絵付け 施釉（実習）	” 1250度焼成
⑭	”（実習）	”
⑮	” 作品提出・鑑賞（講義）	志野・黄瀬戸・織部
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

うつわの形をイメージして、授業に取り組む。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

授業への取り組み 50%・定期試験 25%・作品提出 25%により行う。
なお、授業数 5 分の 1 以上欠席すると、試験の受験資格がなくなります。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：必要な資料は配布します。

科目名		陶芸b		担当教員名		松原一哲	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	秋	金曜日(隔週) 3・4	1	実習	15	選択	

サブタイトル	うつわの心
--------	-------

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・禅・歴史・文化について説明でき、禅について専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を理解し、表現することで、他者との相互理解に努め組織の中で創造的に活動していくことができる。③建学の精神(行学一体)を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・ひたすら陶芸のもつ芸術的なおもしろさに触れる事により、探究することが出来る。
- ・一作一作独自の輝きをもつ、うつわ制作をすることで技を習得が出来る。
- ・プロセスを想像しながら鑑賞でき、焼き物への親しみ、共感がいっそう増すことが出来る。

【授業概要】

器にふれ、口をつけ、見つめる。器は人間のあらゆる感覚の近くで生々と響く言葉を持っています。そして折々に器に語りかける。その言葉をいかに受け止め得るか、そこから個人各様の器に対するこだわりが生まれてくるのでしょうか。ここでは、器への深いまなざしをお持ちの生徒諸君にお話を伺い作陶には励もうと思います。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	大学祭に出品する作品制作 (実習)	花器・大鉢
②	〃 (実習)	
③	〃 (実習)	
④	〃 (実習)	
⑤	〃 (実習)	
⑥	〃 (実習)	
⑦	薪窯焼成 (実習)	窯焚き 薪割り
⑧	〃 (実習)	〃
⑨	轆轤をひく (実習)	茶碗
⑩	〃 (実習)	徳利
⑪	〃 素焼き (実習)	750度焼成
⑫	〃 (実習)	
⑬	〃 本焼き 絵付け 施釉 (実習)	1250度焼成 釉薬の成分
⑭	〃 (実習)	
⑮	作品提出 (講義)	鑑賞
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

うつわの形をイメージして、授業に取り組む。
授業時間外も作品制作すること。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

授業への取り組み 50%・定期試験 25%・作品提出 25%により行う。
なお、授業数5分の1以上欠席すると、試験の受験資格がなくなります。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：必要な資料は配布します。

【メモ】

正眼短期大 学校歌

作詞 谷 耕 月

作曲 小森 真太郎

mp ♩ = 86

う し ま き の き よ き な が れ に
わ き ま い ず る き よ の り の い ず み に
も と ふ か く の な が れ は と は に
こ ん だ く の よ の ま よ い じ に

か ぜ は よ ぶ かんざんのーみ ね
あ た は し きる はるのあけーぼ の
あ お も し む り ち
と お も し む り ち はっしょうのーみ ち

f > > > >

く さ ふ か き こ さ つ の ほ と ー り
う ち な から す の さ は ひ び き ー て
し ょ う ほ う ら の ま な こ ひ ら き ー て
あ あ わ れ ら ぼ こ う が ほ こ ー り

mp *f*

よ に ー た か ー き こ と く い ま ー ー せ り
め ざ ー た ら ー り く わ か き た ま ー ー し いら
た ぞ ー ひ ら ー く ほ う お ん の ー ー く いら
い ざ ー た ち ー て ぶ っ ど き よ ー ー め ん

一、牛牧の清き流れに

風は呼ぶ関山の嶺

草深き古刹のほとり

世に高き古徳在ませり

二、湧き出づる法の泉に

新しき春のあけぼの

打ち鳴らす鐘は響きて

目ざめたり若き魂

三、源深く流れは永遠に

仰ぎ見る無相の光

正法の眼開きて

誰ぞ開く報恩の蔵

四、混濁の世の迷路に

灯し行く八正の道

あゝ我等母校が誇り

いざ起ちて仏土浄めん

正眼短期大学 教職員名簿